

仏 教 学 部

履 修 要 項

昭 和 59 年 度

駒 澤 大 學

学 年 暦

前 期

- 4月8日(日) 入学式(学部・短大)
积尊降誕会
- 9日(月) } 新入生オリエンテーション
- 12日(木) }
- 12日(木) } 在校生成績発表(学部・短大)
- 13日(金) }
- 14日(土) 授業開始
- 12日(木) } 在校生成績質疑応答
- 17日(火) }
- 20日(金) } 1年次生単位履修届受付
- 21日(土) }
- 23日(月) } 2・3・4年次生単位履修届受付
(学部により受付日が異なる)
- 28日(土) }
- 29日(日) 天皇誕生日
- 5月1日(火) 祝禱日
- 3日(木) 憲法記念日
- 4日(金) 研修日(全学休業)
- 5日(土) こどもの日
- 14日(月) }
- 23日(水) } 2・3・4年次生健康診断
- 6月1日(金) 祝禱日
- 11日(月) 卒業論文論題提出締切(正午)
- 7月1日(日) 祝禱日
- 9日(月) }
- 14日(土) } 中間試験(授業平常通り)
- 15日(日) 盂蘭盆会
- 16日(月) } 前期定期試験(前期終了科目)
(授業休講)
- 17日(火) }
- 18日(水) 夏季休暇第1日

後 期

- 9月10日(月) 授業再開
- 12日(水) 前期定期試験欠試届(追試申込)
提出締切
- 13日(木) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英
米文)・法学部・短大国文・英文の
1年次生及び経済学部の2年次生)
- 20日(木) }
- 15日(土) 敬老の日
- 17日(月) } 前期定期試験成績発表および再試験
申込受付
- 18日(火) }
- 23日(日) 秋分の日
- 26日(水) }
- 28日(金) } 前期追・再試験(授業平常通り)

- 29日(土) 両祖(道元・瑩山禅師)忌
- 10月1日(月) 祝禱日
- 2日(火) }
- 5日(金) } 1年次生健康診断
- 5日(金) 達磨忌
- 4日(木) } 歴史・社会学科(1年次生)専攻コ
ース指定届受付
- 5日(金) }
- 10日(水) 体育の日
- 11日(木) }
- 12日(金) } 前期追・再試験成績発表
- 15日(月) 第102回開校記念日
- 11月1日(木) 祝禱日
- 3日(土) 文化の日
- 14日(水) }
- 16日(金) } 転部科試験願書受付
- 21日(水) 太祖(瑩山禅師)降誕会
- 23日(金) 勤労感謝の日
- 30日(金) 転部科試験
- 12月1日(土) 祝禱日
- 5日(水) }
- 13日(木) } 編入学願書受付
- 8日(土) 成道会
- 10日(月) 卒業論文提出締切(正午)
- 18日(火) 冬季休暇第1日
- 19日(水) 編入学試験

昭和60年

- 1月8日(火) 授業再開
- 15日(火) 成人の日
- 16日(水) }
- 26日(土) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(土) 高祖(道元禅師)降誕会
- 28日(月) }
- 2月5日(火) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 2月1日(金) 祝禱日
- 7日(木) } 定期試験欠試届提出締切
卒業論文口頭試問
- 11日(月) 建国記念の日
- 15日(金) 涅槃会
- 20日(水) }
- 21日(木) } 学部4年次生・短大生成績発表およ
び追・再試験申込受付
- 27日(水) }
- 3月5日(火) } 学部4年次生・短大生追・再試験,
学部1・2・3年次生追試験
- 3月1日(金) 祝禱日
- 19日(火) 卒業生名簿発表
- 21日(木) 春分の日
- 25日(月) 卒業式

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
1.	卒業に必要な単位数	(3)
2.	卒業論文	(3)
3.	学 士 号	(4)
III	授業科目の履修方法	(5)
1.	一般教育科目の履修方法	(5)
2.	外国語科目の履修方法	(6)
3.	保健体育科目の履修方法	(7)
4.	基礎教育科目の履修方法	(9)
5.	専門教育科目の履修方法	(9)
6.	随意科目の履修方法	(14)
7.	再履修科目の履修方法	(14)
	※コード番号について	(15)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(17)
1.	履修科目の登録	(17)
2.	履修届記入上の注意	(18)
3.	履修届(時間割)の作成順序	(19)
V	試験および成績評価	(20)
1.	定期試験	(20)
2.	中間試験	(20)
3.	追・再試験	(20)
4.	成績評価・単位認定	(20)
5.	進級基準	(21)
6.	受験者心得	(21)
VI	クラス制およびクラス主任	(23)
VII	教職課程・資格講座	(23)
VIII	事務取り扱いについて	(24)
IX	届書・願書について	(25)
X	各種証明書取扱い窓口	(26)
	講 義 内 容	(27)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上（7カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	24	132以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		4	16	16	
専 門 教 育 科 目	必 修	14	38	76	
	選 択		30		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

2. 卒 業 論 文

イ. 4年次で卒業論文（1部）を提出し、その審査に合格しなければ卒業することができない。審査に合格した者には8単位を与える。

ロ. 論題提出

あらかじめ自己の研究目標をたて、適当な選択科目を履修し、4年次において学部所属の教員に自己の研究概要を述べ、指導教授を決定し、その承認を得て指定の期日6月11日（月）までに卒業論文の論題を届け出なければならない。

ハ. 論文作成について

- (a) 論文作成にあたっては常に指導教授と相談して、その指導を受けなければならない。
- (b) 用紙は大学所定の論文用紙を使用すること。
- (c) 論文の枚数は序文より数えて50枚（100ページ）以上、100枚（200ページ）以内とし、それぞれページを記入すること。

(d) 表紙は指定のものを使用し，論文を二つ折りにして右とじとする。

(e) 上記の規定以外のものは受付けない。

ニ. 論文提出

論文は，12月3日（月）から12月10日（月）正午までに教務部へ提出すること。

論文は，誤字，脱字，内容等について再点検し提出すること。

ホ. 論文の審査について

論文は指導教授によって審査され，論文の内容について口頭試問を2月7日（木）に行ったのち合否を判定する。

3. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年をこえてはならない）在学し，卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し，次の学士の称号が与えられる。

仏教学部	禅学科	}	文学士
	仏教学科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない）
- ハ. 各学年に配分された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配分された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

人文分野	4単位ずつ	3科目	計	12単位	}	合計	6科目	24単位
社会分野	4単位ずつ	2科目	計	8単位				
自然分野	4単位	1科目		4単位				

※2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

分野	授業科目	単位	履修科目数	備考
人文分野	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ」を含めて3科目選択必修	
	哲学	4		
	論理学	4		
	文学	4		
社会分野	法学憲法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	2科目選択必修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする
	経済学	4		
	社会学	4		
自然分野	自然科学概論	4	1科目選択必修	
	心理学	4		
	人類学	4		

※「宗教学Ⅰ」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の計2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数	備考
英語 1G	2		1G・1R 2科目を必修とする。ただし1Gは英会話または英語LLに代替できる	LL (ランゲージ・ラボラトリー)
英語 1R	2			
英会話	2			
英語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ドイツ語 1G	2	文法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること。	
ドイツ語 1R	2	講読		
フランス語 1G	2	文法		
フランス語 1R	2	講読		
中国語 1G	2	文法		
中国語 1R	2	講読		
スペイン語 1G	2	文法		
スペイン語 1R	2	講読		
ロシア語 1G	2	文法		
ロシア語 1R	2	講読		

※英語科目内容

英語 1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語 1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※「英語 1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語として2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修すること。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2AⅠ	2		中 国 語 2AⅠ	2	講 読
英 語 2AⅡ	2		中 国 語 2AⅡ	2	講 読
ド イ ツ 語 2AⅠ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2AⅠ	2	講 読
ド イ ツ 語 2AⅡ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2AⅡ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2AⅠ	2	講 読	ロ シ ア 語 2AⅠ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2AⅡ	2	講 読	ロ シ ア 語 2AⅡ	2	講 読

※英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通しはば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を発展させ応用力を修得する。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分は、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、9月下旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で充分考慮の上登録すること。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については別に定める。
- ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体育実技	2	

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義、実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義、実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義、実技とも月曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

前期・後期ともそれぞれ履修時間に含まれている数種目の中から希望する種目を選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間に、前期・後期ともつぎの履修時間に含まれている数種目の中から決定するので、必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。選択した種目名また種目の担任名ではない。

月・1 (禅・仏・国)	月・2 (英・地)	月・3 (歴・社)
陸上競技 ◎森本 体操 三幣 ソフトボール 太田 トレーニング 武藤 室内球技 久保田 テニス 浅野 卓球 秋田 剣道 上山	剣道 ◎上山 陸上競技 森本 サッカー 原山 ソフトボール 太田 室内球技 久保田 テニス 浅野 トレーニング 武藤	ソフトボール ◎太田 陸上競技 森本 体操 三幣 室内球技 久保田 テニス 浅野 トレーニング 武藤 卓球 村松

再履修クラス（2年次生以上の再履修者クラスで授業は本校で行う）

火・3	水・1	水・2
室内球技 ◎長浜 太極拳 大石	室内球技 ◎原山 剣道 上山	室内球技 ◎原山 剣道 上山

※◎印は講座主任

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して2単位を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位を認定する。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが、実技の重要な意味であることから、本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い、毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

ヘ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれ担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

(a) 盗難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には、担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。

(b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見しておくこと。

4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で1年次・2年次において4科目16単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	基礎仏教学	4	
	仏書解説Ⅰ	4	
2年次	仏教語解説	4	
	仏書解説Ⅱ	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は禅学科と仏教学科で異なる。

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分れ、各学科で定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって充分検討した上で履修すること。

なお一度単位を修得した科目については再度履修しても単位にはならない。

禪 学 科

必 修 科 目 (46単位)

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	禪 学 概 論	4		
	禪 宗 史 I	2	中国禅宗史	
	宗 典 講 読 I	2	修証義・用心集・随聞記	
	禪 学 実 習 I	2	坐禅（坐禅儀・用心記）	
三 年 次	宗 典 講 義 I	4	正法眼蔵	
	禪 宗 史 II	2	日本禅宗史	
	宗 典 講 読 II	2	大清規・信心銘拈提	
	禪 学 講 義	2	参同契・宝鏡三昧・証道歌	
	禪 学 演 習 I	2	碧巖録・従容録・無門関	
	禪 学 実 習 II	2	坐禅・法式・参禅指導	
四 年 次	演 習 I	4		
	宗 典 講 義 II	4	伝光録	
	禪 学 演 習 II	2	洞山録・永平広録・臨濟録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8		

※演習Ⅰ・演習Ⅱの履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

禅学科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
禅 学 研 究	4		現 代 哲 学 概 説	4	
禅 籍 講 義	4		哲 学 史	4	
禅 学 特 講	4	I・II・III・IV (IIIは休講)	哲 学 演 習	4	
禅 特 講	4		東 洋 思 想 研 究	4	
禅 学 思 想 史	4		宗 教 学 概 論	4	
詩 偈	4		新 宗 教 概 説 新 神 道 教 概 説 宗 教 哲 学 説 学	4	59年度は神道概説(輪番開講)
日 用 経 典	4		宗 教 史	4	
禅 美 術	4		キ リ ス ト 教 史	4	
仏 教 概 論	4		パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 研 究	4	休講	パ ー リ 語 上 級	4	
仏 教 教 理 史 I	2	印度	パ ー リ 語 演 習	4	休講
仏 教 教 理 史 II	2	中国	サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
印 度 仏 教 史	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
中 国 仏 教 史	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 演 習	4	
日 本 仏 教 史	4		チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
印 度 仏 教 文 化 史	4	休講	チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・V (Iは休講)	中 国 文 学 概 論	4	
仏 典 研 究	4		中 国 文 学 演 習	4	
外 国 語 仏 書 演 習	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
各 宗 要 (浄土学/真言学/日蓮教学)	4	59年度は真言学 (輪番開講)	宗 教 教 育	4	
仏 教 民 俗 学	4		宗 教 行 政	4	隔年開講(休講)
仏 教 美 術	4		教 化 法	4	
青 少 年 問 題 研 究	4		青 少 年 教 化 法	4	
青 少 年 指 導 演 習	4		心 理 学 概 論	4	
哲 学 概 説	4				

仏 教 学 科

必 修 科 目 (46単位)

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	仏 教 概 論	4		
	仏 教 教 理 史 I	2	印度仏教教理史	
	仏 典 演 習 I	2	原人論・覚夢抄・七十五法	
	禪 学 実 習 I	2	坐禅(坐禅儀・用心記)	
三 年 次	仏 教 教 理 史 II	2	中国仏教教理史	
	印 度 哲 学 史	2		
	経 典 講 読 I	2	法句経・四十二章経・遺教経・心経・金剛般若経	
	仏 典 演 習 II	2	起信論・三論玄義・四教儀・五教章	
	宗 典 講 義 I	4	正法眼蔵	
	禪 学 実 習 II	2	坐禅・法式・参禅指導	
	演 習 I	4		
四 年 次	経 典 講 読 II	2	法華寿量品・維摩経 普門品・般若経	
	宗 典 講 義 II	4	伝光録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8		

※演習Ⅰ・演習Ⅱの履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

仏 教 学 科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
仏 教 研 究	4	休講	現 代 哲 学 概 説	4	
印 度 仏 教 史	4		哲 学 史	4	
中 国 仏 教 史	4		哲 学 演 習	4	
日 本 仏 教 史	4		東 洋 思 想 研 究	4	
印 度 仏 教 文 化 史	4	休講	宗 教 学 概 論	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・V (Iは休講)	新 宗 教 概 説 神 道 教 概 説 宗 教 哲 学	4	59年度は神道概説(輪番開講)
仏 典 研 究	4		宗 教 史	4	
外 国 語 仏 書 演 習	4		キ リ ス ト 教 史	4	
各 宗 要 (浄土学) 綱 要 (真言学) 日 蓮 教 学	4	59年度は真言学 (輪番開講)	パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 民 俗 学	4		パ ー リ 語 上 級	4	
仏 教 美 術	4		パ ー リ 語 演 習	4	休講
禅 学 概 論	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
禅 学 研 究	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
禅 宗 史 I	2	中国	サ ン ス ク リ ッ ト 語 演 習	4	
禅 宗 史 II	2	日本	チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
禅 学 特 講	4	I・II・III・IV (IIIは休講)	チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
禅 特 講	4		中 国 文 学 概 論	4	
禅 籍 講 義	4		中 国 文 学 演 習	4	
禅 学 思 想 史	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
詩 偈	4		宗 教 教 育	4	
日 用 経 典	4		宗 教 行 政	4	隔年開講(休講)
禅 美 術	4		教 化 法	4	
青 少 年 問 題 研 究	4		青 少 年 教 化 法	4	
青 少 年 指 導 演 習	4		心 理 学 概 論	4	
哲 学 概 説	4				

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学年とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日本宗教文化史	4		日 本 語 F	2	(初級・中級)
ド イ ツ 語 F	2		ド イ ツ 語 F L L	2	(初級・中級)
フ ラ ン ス 語 F	2		フ ラ ン ス 語 F L L	2	(初級・中級)
中 国 語 F	2		中 国 語 F L L	2	(初級・中級)
ス ペ イ ン 語 F	2		ス ペ イ ン 語 F L L	2	(初級・中級)
ロ シ ア 語 F	2		ロ シ ア 語 F L L	2	(初級・中級)

※日本語Fは外国人留学生のみを対象とする科目で1年次生より履修できる。

7. 再履修科目の履修方法

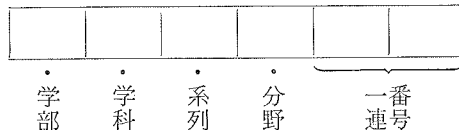
- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を、翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。再履修科目は履修制限数には含まれない。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。
- ニ. 外国語・体育実技・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、留年者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

(a) 科目コードの区分



(b) 学部, 学科番号は「学生番号について」での説明のとおり

(c) 系列, 分野区分について

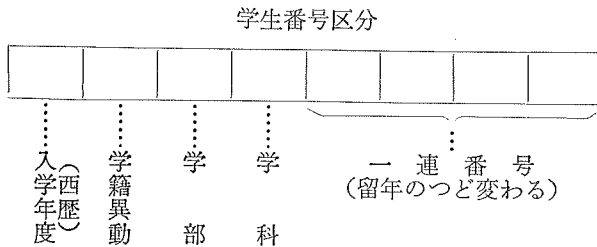
授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人文分野		1(必修), 2(選択)
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	1
外国語科目	2	
第1外国語		
第2外国語		
保健体育科目	4	
体育実技		1
保健体育理論		2
専門教育科目	5	
必修科目		1.2.3
選択科目		5.6.7.8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3.4.5.6.7.8

2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせている。

この学生番号は入学から卒業まで学籍異動（留年・転部科など）がない限り変わらない。学内での事務処理はほとんど学生番号で処理されるので正確に覚えておくこと。

学生番号のみかた



学籍異動の番号

- 0……異動なし
- 1……留年
- 2……転部(科)
- 3……編入
- 4……留年をして転部(科)
転部(科)・編入をして留年

学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号	学部・学科名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1		法 学 部	4	
禅 学 科		1	法 律 学 科		1
仏 教 学 科		2	政 治 学 科		2
文 学 部	2		経 営 学 部	5	
国 文 学 科		1	経 営 学 科		1
英 米 文 学 科		2	短 期 大 学	8	
地 理 学 科		3	国 文 科		1
歴 史 学 科		4	英 文 科		2
社 会 学 科		5	放 射 線 科		3
経 済 学 部	3				
経 済 学 科		1			
商 学 科		2			

(例)

4	0	1	1	0	0	1	2
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
一	学	仏	禅	12			
九	籍	教	学	番			
八	異	学	科				
四	動	部					
年	な						
入	し						
学							

(1984年度入学・仏教学部禅学科12番)

Ⅳ 履修科目の登録(履修届)とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	14科目	—
2年次	14科目以内	17科目以内
3年次	14科目以内	17科目以内
4年次	1科目以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし，最高制限を設けないが，卒業単位および授業出席に充分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること）

ロ. 履修届の日時・場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は，教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

	月 曜 日			
	科目名	科目コード	担任	担任コード
一時間限	ドイツ語 1 G	312201	百 済	879
二時間限	保健体育理論(前)	314201	長 浜	993
	保健体育理論(後)	314201		622
三時間限	宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
四時間限	論 理 学	310203	国 嶋	429
	自然科学概論	310401	漆 原	121
五時間限	体 育 実 技	314101	大石(武)	141

正しい記入例

曜日	時間	再履	科目名	科目コード	担任	担任コード
月 (1)	1		ドイツ語 1 G	3 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前)	3 1 4 2 0 1	長 浜	9 9 3
	3		宗 数 学 I	3 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	3 1 0 2 0 3	国 嶋	4 2 9
	5		体 育 実 技	3 1 4 1 0 1	大石(武)	1 4 1

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
 - イ. 科目名・科目コード・担任名・担任コードが一致しない場合
 - ロ. 時間を誤って記入した場合
 - ハ. 間違い易い数字で記入した場合(例, 0と6・1と7)
 - ニ. その他, 不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は、時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎仏教学, 仏書解説Ⅰ (必修)	2
5	一般教育科目	{人文分野, 開講科目の中から2科目を選択必修 {社会分野, 開講科目の中から2科目を選択必修 {自然分野, 開講科目の中から1科目を選択必修	2
			2
			1
1年次履修制限科目数			14

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月ないし2月に実施される。
- ロ. 受験にあたっては、正規の手続きを経て登録した授業科目であること。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
(注) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等掲示に充分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が独自に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記入し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II 再試験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

III 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技・禅学実習・その他実験実習を伴なう科目は、追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

4. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点~80点)・良(79点~70点)・可(69点~60点) および不可(59点~

0点)とし、可以上を合格、不可は不合格とする。

- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験(4年次生のみ)の成績評価は70点以下とする。

5. 進級基準

◎正規進級

上級学年に進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、卒業所要単位のうち30単位以上。
- ロ. 2年次から3年次に進級する場合、卒業所要単位のうち60単位以上。
- ハ. 3年次から4年次に進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

◎注意進級

正規の進級基準に達しないが、教育的配慮から進級を認める。ただし、注意進級が再度つづく場合には、取得単位の不足から、4年間で卒業することが困難となるので今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

- イ. 1年次から2年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、29~20単位までとする。
- ロ. 2年次から3年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、59~50単位までとする。
- ハ. 3年次から4年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上取得するも、その内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が16単位までとする。ただし17単位以上は留年とする。

6. 受験者心得

- イ. 指定された試験場(教場)で受験すること。
- ロ. 学生証を所持しない学生は、いかなる理由があっても受験できない。また、学生証は監督者が見やすいように通路側に提示しておくこと。
- ハ. 試験開始より30分以上遅刻した者は受験できない。また開始後30分を経過するまで退場できない。
- ニ. 答案の作成はペン書き(ボールペン可)を原則とする。とくに、学部・学科・学年・番号・氏名は必ずペン書きにし、解答にかかる前に記入すること。
- ホ. 次の場合は退場を命じ、その答案を無効とする。
 - (1) 私語や態度の不正なもので注意しても改めないとき
 - (2) 許可なく物品・教科書・ノート類を貸借したとき
 - (3) 監督者の指示に従わないとき
- ヘ. 次の場合には、その答案を無効とする。

(1) 無記名のもの

(2) 配布された答案用紙以外のものを用いたとき

(3) 指定された場所に提出しないとき

ト. 答案用紙は指定の枚数だけ配布し、原則として書き損じても再交付しない。

チ. 受験中に不正行為があって、当該教授会が不正行為と認定したときは、学則第57条により懲戒する。

なお、懲戒は全学に公示する。

リ. 以上のほか、試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示による。

Ⅵ クラス制およびクラス主任

イ. 1・2年次は学科毎にクラス制をとっている。

ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅶ 教職課程・資格講座

仏教学部で開講されている資格取得の課程講座は、教職課程・学校図書館司書教諭講座、博物館学講座および社会福祉主事講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、博物館学、および社会福祉主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会教育の場として十分に利用され、その目的・使命を達成する博物館および社会福祉を増進させるための機関等の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。（授業科目の講義内容は、当該履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

○開講されている課程・講座

課程・講座名		備考
教 職 課 程	2年次より	
学校図書館司書教諭講座	〃	
博 物 館 学 講 座	〃	
社会福祉主事講座	〃	

VIII 事務取り扱いについて

1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にご相談すること。ただし、評価の質疑については直接担任教員に申出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間について

授業時間は次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時～13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休講について

- イ. 休講は担任教員により連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口に申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については、午前7時現在国電（山手、中央、京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

Ⅸ 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類		要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口
届	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届 (仏教・文学部のみ)	各学部掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	本 籍 地 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保 証 人 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保 証 人 住 所 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑤
願	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができない場合は、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復 学 願	休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7日までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤
	転部(科)・転学願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり (転学はなし)	要	要	⑦

X 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	一 通 100円 (英文証明書) (一通 300円)
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教 員 免 許 状 取 得 見 込 証 明 書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口に納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。

発行は原則として3日後。ただし、教務部取扱い証明書は、6月下旬より10月中旬と3月は大変混雑が予想されるので、掲示に注意し、充分余裕をもって申し込むこと。

講 義 内 容 目 次

一般教育科目(共通).....	(29)
外国語科目(共通).....	(33)
保健体育科目(共通).....	(34)
随意科目(共通).....	(37)
基礎教育科目.....	(40)
専門教育科目.....	(42)
教職および資格講座.....	(53)

一般教育科目

人文分野

宗教学 I (禅) (松本 皓一)	31
宗教学 I (仏教) (松本 皓一)	31
宗教学 I (再クラス) (奈良 康明)	31
宗教学 I (再クラス) (岡部 和雄)	31

社会分野

哲学 (円谷 裕二)	31
論理学 (山下 太郎)	31
文学 (篠原 寿雄)	31
法学憲法 (馬越 道夫)	32
経済学 (有井 行夫)	32
社会学 (角家 文雄)	32

自然分野

自然科学概論 (齊藤 浩三)	32
人類学 (中島 寿雄)	32
心理学 (谷口 泰富)	32

外国語科目

英会話 (Pratt, T. C. Dean)	33
-------------------------------	----

保健体育科目 (共通)

体育実技	34
------------	----

随意科目

日本宗教文化史 (脇本 平也)	37
ドイツ語 F (栗原 万修)	37
ドイツ語 FLL (初級) (小林佳世子)	37
ドイツ語 FLL (中級) (松本 洋子)	37
フランス語 F (小玉 齊夫)	37
フランス語 FLL (初級) (松岡 宏一)	37
フランス語 FLL (初級) (マドレーヌ・マルタン)	37
フランス語 FLL (中級) (マドレーヌ・マルタン)	38
中国語 F (刈間 文俊)	38
中国語 FLL (初級) (果 荃 英)	38
中国語 FLL (中級) (羅 漾 明)	38
スペイン語 F (佐藤 美子)	38
スペイン語 FLL (初級) (ホワン・ナパロ)	38
スペイン語 FLL (中級) (ホワン・ナパロ)	38

ロシア語 F (岡沢 宏)	38
ロシア語 FLL (初級) (タチャーナ・パリーソヴナ・野村)	38
ロシア語 FLL (中級) (タチャーナ・パリーソヴナ・野村)	38
日本語 F (初級) (留学生対象) (杉山 秀子)	39
日本語 F (中級) (留学生対象) (大塚 純子)	39

基礎教育科目

基礎仏教学 (石井 修道)	40
基礎仏教学 (石川 力山)	40
基礎仏教学 (吉津 宜英)	40
仏書解説 I (伊藤 秀憲)	40
仏書解説 I (峯岸 孝哉)	40
仏書解説 I (原田 弘道)	40
仏書解説 II (岡部 和雄)	40
仏書解説 II (池田 魯参)	41
仏書解説 II (皆川 広義)	41
仏教語解説 (新井 勝龍)	41
仏教語解説 (伊藤 隆寿)	41
仏教語解説 (石川 力山)	41

専門教育科目

禅学概論 (鏡島 元隆)	42
禅学思想史 (峯岸 孝哉)	42
禅宗史 I (田中 良昭)	42
禅宗史 II (原田 弘道)	42
禅学実習 I (酒井得元・河村孝道・小坂機融)	42
禅学実習 II (鈴木格禅・伊藤秀憲)	42
禅学講義 (小坂 機融)	43
禅学演習 I (青龍 宗二)	43
禅学演習 II (河村 孝道)	43
宗典講読 I (新井 勝龍)	43
宗典講読 II (若月 正吾)	43
宗典講義 I (酒井 得元)	43
宗典講義 II (光地 英学)	43
日用経典 (櫻井 秀雄)	43
禅学特講 I (原田 弘道)	44
禅学特講 II (鏡島 元隆)	44
禅学特講 IV (鈴木 格禅)	44
禅特講 (椎名 宏雄)	44
詩 偈 (山口 晴通)	44
禅 美術 (竹内 尚次)	44
仏教概論 (山内 舜雄)	44
印度仏教史 (袴谷 憲昭)	45
中国仏教史 (佐藤 達玄)	45

日本仏教史 (山内 舜雄)	45
仏教教理史 I (印度) (平井 俊栄)	45
仏教教理史 II (中国) (田中 良昭)	45
印度哲学史 (金沢 篤)	45
経典講読 I (石川 力山)	45
経典講読 II (岡部 和雄)	45
仏典演習 I (佐藤 達玄)	46
仏典演習 I (吉津 宜英)	46
仏典演習 II (池田 魯参)	46
仏典演習 II (伊藤 隆寿)	46
仏典研究 (岡部 和雄)	46
仏教特講 II (納富 常天)	46
仏教特講 III (鎌田 茂雄)	46
仏教特講 IV (太田 久紀)	46
仏教特講 V (佐藤 達玄)	47
外国語仏書演習 (吉津 宜英)	47
パーリ語 (初級) (福田 孝雄)	47
パーリ語 (上級) (福田 孝雄)	47
サンスクリット語 (初級) (金沢 篤)	47
サンスクリット語 (上級) (金沢 篤)	47
サンスクリット語演習 (袴谷 憲昭)	47
チベット語 (文法) (袴谷 憲昭)	47
チベット語 (講読) (山口 瑞鳳)	48
ラテン語特講 (佐藤 玖美子)	48
宗教学概論 (松本 皓一)	48
宗教史 (松本 皓一)	48
キリスト教史 (秀村 欣二)	48
神道概説 (土岐 昌訓)	48
各宗綱要 (真言学) (福田 亮成)	48
仏教美術 (林 良一)	48
仏教民俗学 (和田 謙寿)	48
宗教教育 (櫻井 秀雄)	49
教化法 (皆川 広義)	49
青少年教化法 (皆川 広義)	49
青少年問題研究 (和田 謙寿)	49
青少年指導演習 (和田 謙寿)	49
哲学概説 (斎藤 知正)	49
現代哲学概説 (中島 盛夫)	49
哲学史 (中村友太郎)	50
哲学演習 (斎藤 知正)	50
中国文学概論 (飯田 利行)	50
中国文学演習 (飯田 利行)	50
東洋思想研究 (船津 富彦)	50
心理学概論 (篠原 英寿)	50
禅学研究 (青龍 宗二)	50
禅籍講義 (青龍 宗二)	50
演習 I (永井 政之)	51

一般教育科目

人文分野

宗教学Ⅰ（禅）

松本 皓一

宗教についての学問上の基礎問題にふれ、禅理解に対する広い視野を開拓する。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

宗教学Ⅰ（仏教）

松本 皓一

宗教についての学問上の基礎問題にふれ、仏教理解に対する広い視野を開拓する。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

宗教学Ⅰ（再クラス）

奈良 康明

人間生活における宗教、仏教の意味と機能、構造をあきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗教学Ⅰ（再クラス）

岡部 和雄

前半で宗教とは何かという問題を現代とのつながりの中で具体的に考えていく。後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を呈示したい。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』

（日新出版）

社会分野

哲 学

円谷 裕二

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の習得にも努める。

〔教科書〕 『哲学思想の歴史』（公論社）

論 理 学

山下 太郎

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

文 学

篠原 寿雄

禅語録や仏教経典を読む基礎知識を学ぶことを主眼にしたい。そのために漢文文献の訓読法、その味い方などを学習する。また、唐宋代の口語（俗語）学習にも留意して、将来の禅語録や『正法眼蔵』研究に資したい。

〔教科書〕 随時指示したい。

法 学 憲 法

馬 越 道 夫

社会秩序を維持発展させることは社会の内在的要請であり、法はかかる要請を達成するための手段である。従って社会秩序のあり方が変化すれば、法もまた変化せざるをえない。本講では法のかかる機能をふまえ、判例等の具体例を通じて法と社会の関連を講述したい。

前半は憲法・特に基本的人権と三権分立制度及び両者の関連を講義し、後半は民法・商法・訴訟法などについて講義する予定である。限られた時間を有効に使うために、必ず予習をすること、六法全書に親しむこと、これが皆さんに対する私のお願いである。

〔教科書〕 北島照明著『新訂 法学概論』（法学書院出版）

〔参考書〕 高窪利一編『現代の法学』（蒼文社出版）

経 済 学

有 井 行 夫

毎時間ふたつに分け、前半は時事問題、後半は経済理論の基礎をお話します。時事問題では一週間の新聞ニュースを素材にして、現代経済の課題と結合して論じます。経済理論に関しては、現代社会の編成原理としての「商品」と「資本」の理解に力を注ぎます。人間の「悩み」や「苦しみ」、人間の「生きる力」や「喜び」のあらわれ方が、社会の仕組と密接に結びついていること、この社会を組み立てている主人公は、生きた人間ではなくて、「お金を生むお金」(=資本)であることを深く理解することが目標です。

〔教科書〕 『資本主義の原理と歴史』（青木書店）

社 会 学

角 家 文 雄

社会学の基礎理論と、その応用として教育社会学、マス・コミ社会学を講義する。

自 然 分 野

自然科学概論

斉 藤 浩 三

まず、地球の構成ならびに性状を概述し、ついで、地圏に関する諸事象とくに自然災害と関連の深いものを解説し、さらにエネルギー問題や環境問題をとりあげて講義する。

人 類 学

中 島 寿 雄

人類学の範囲はきわめて広く、短時間にその各項目を講ずるときは、表面をなでるだけの散漫なものになりがちなので、ここでは問題を「性」にしぼって講ずる。性は年令とともに人類学上の重要な概念であるばかりでなく、人類学のほとんど全領域をおおいうるものだからである。本学の人類学は一般教育のうち自然科学分野に属しているの、講義も自然科学的方面に主眼をおくことは勿論だが、ヒトの本質上、またヒトの性の本質上、社会や文化にも言及せざるをえず、むしろ身体と文化との関連を考究させることこそ、人類学一般教育の目的に副うものというべきであろう。

〔教科書〕 準備中

〔参考書〕 講義中に随時指示する。

心 理 学

谷 口 泰 富

本講では次のような内容を取り挙げてゆく。

1. 心理学の目的・方法など
2. 環境の認知
3. 行動
4. 人格
5. 発達
6. その他

〔教科書〕 中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）

外 国 語 科 目

英 会 話

Pratt, T. C. Dean

English conversation necessary for everyday life. Native speaker word-group sound. Also discussion on current life, Japan and the world. Each student is required to give a speech or tell a story. Original, Limit 5 Minutes.

保健体育科目(共通)

実技種目の概要及び指導教員名

一年次生種目〈玉川校舎〉

室内球技（玉川体育館）

牧野 茂・光永 吉輝
田中 佳孝・村松 誠
秋田 浩一・久保田洋一
竹田 幸夫

バレーボール、バスケットの基礎技術の習得とともに、ゲームにより、その競技を理解する。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

体操（玉川体育館）

三幣 晴三・竹田 幸夫

マット、鉄棒などを中心に、初心者を対象とした遊戯の内容から出発し、段階的に技を習得する。

服装：一般的運動服装，体操シューズが望ましい。

トレーニング（玉川体育館）

高橋 俊介・秋田 浩一
武藤 幸政・高森 秀蔵

個人の体力差に応じたトレーニングプランを作成し、主に最新のトレーニング器械を使用した体力トレーニングを行う。このトレーニングの目的は体力の増進、内臓器官の強化である。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

柔道（玉川体育館）

光 永 吉 輝

初心者を対象として基本技能（受け身）、応用技能（投

げの形）（固の形）等の練習を行う。服装は原則として柔道衣。

剣道（玉川体育館）

上 山 智 身

剣禅一致の精神に基き、初心者を対象として次の順序で実施する。

1. 基本動作
2. わざ
3. 懸り稽古，互格稽古
4. 試合稽古

服装・試験については最初の授業において説明する。

空手道（玉川体育館）

大石 武士・高橋 俊介

拳禅一致の精神に基き、初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本技（空気を相手に，受，突，打，蹴技の反復練習）
2. 形（基本の受，突，打，蹴を合理的に構成したものを空気を相手に行う）
3. 護身術
4. 約束基本組手（基本技で取得した，受，突，打，蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組手）

服装は原則として空手道衣着用のこと。

相撲（玉川体育館）

館 岡 儀 秋

基本技（攻の型・守りの型）の練習を主に、併せて応用技の習得を行い、心・技・体三則の本義を理解させる様指導する。

土俵マットを使用する。服装は海水パンツ等の上に相撲パンツを着用する。

陸上競技（玉川グラウンド）

森 本 葵

駒大式四種競技（100米、長距離、砲丸投、走高跳）を行い、得点制とする。

服装はランニングパンツが望ましいが、普通のトレパンでも可。なお、スパイクの着用は原則として認めない。

ソフト・ボール（玉川グラウンド）

太田 誠・館岡 儀秋
高森 秀蔵

基本技能を中心として毎時間ゲームを行う。服装はトレシャツ、トレパン。グラブ、ミットは貸与する。

サッカー（玉川グラウンド）

原山 良勁・田中 佳孝
秋田 浩一

基本技術を中心として練習し、毎時間ゲームを行う。服装はショートパンツと厚い靴下を着用すること。

ハンド・ボール（玉川グラウンド）

村 松 誠

パス、シュート等基本技術を中心にゲームを行う。服装は、トレシャツ、トレパン、運動靴を用意すること。

テニス（玉川グラウンド）

牧野 茂・田中 佳孝
浅野 鉦世・関本美津子

ゲーム（ダブルス）中心の授業を行う。服装は、一般的な運動服装（白のトレーニングパンツまたは短パンツが望ましい）とするが、靴はテニスシューズを用意すること。

卓球（玉川校舎）

宮沢 栄作・村松 誠
秋田 浩一・関本美津子

ゲーム（シングル、ダブルス）中心の授業を行う。服装は体育時のもので良い。室内履シューズを用意すること。ラケットは貸与する。

太極拳（玉川体育館）

大 石 武 士

太極拳の基本的な動きを習得し、精神・身体の健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

ゴルフ（玉川グラウンド）

三 幣 晴 三

ゴルフスイングの基礎技術の習得とともに、ゴルフで最も肝要とされるルールとマナーの基本的理解により、正しいゴルフの精神を身につける。服装は一般的運動服装とする。

実技教場案内

玉川体育館・グラウンド・校舎：

世田谷区宇奈根 1-1-1（学生手帳を参照）

TEL (709) 0717

再履修生種目〈本校〉

室内球技（本校体育館）

長 浜 友 雄 ・ 原 山 良 勁

基礎技術の習得と併せて、ゲームにより、その競技

を理解する。(バレーボール, バスケットボール, その他)

服装: 一般的運動服装, 上履用運動靴。

空手道 (本校第二体育館)

大 石 武 士

拳禪一致の精神に基き, 初心者を対象として実施する。服装は原則として空手道衣着用のこと。

剣道 (本校第二体育館)

上 山 智 身

剣禪一致の精神に基き, 初心者を対象として実施する。服装・試験については最初の授業において説明する。

実 技 教 場 案 内

- (1) 本校体育館: 本学内, 男子更衣は三階東側スタンド (ステージに向い左側)。女子は三階西側の更衣室 (ステージに向い右側)。
TEL (418) 9517・9213
- (2) 本校第二体育館: 本学内, 相撲道場の隣, 一階は柔道場, 二階は剣道・空手道場。更衣室は各階にある。
TEL (418) 9201

随 意 科 目

日本宗教文化史

脇 本 平 也

——宗教思想論争——昨年度に引き続き、日本における宗教思想の対立・論争の事例をいくつか取り上げ、文化史的背景を考慮しながらながめてみる。原史料を読む場合には、演習形式を取り入れて学生諸君にも分担を課することができる。

〔参考書〕 適時指示する。

ドイツ語 F

栗 原 万 修

ドイツ民話と日本民話（独文）を読みくらべ、比較文学的、あるいは心理学的な比較なども一緒に考えてみたい。できるだけ読みやすいものを選び、テキストはその都度配布する（無料）。

ドイツ語 FLL（初級）

小 林 佳 世 子

意志疎通の基本的な条件である聴き取り能力を養うために、音声としてのドイツ語に重点をおく。テープやビデオを用いて、現代の生きたドイツ語に触れ、正しい発音、基本的な文型や語彙を身につけ、やさしい日常会話ができるようにしたい。

ドイツ語 FLL（中級）

松 本 洋 子

一年次のドイツ語（1G、1R）を終えた者を対象に、ビデオテープなどを用いて、一年次ですでに修得した基本的な文型・語彙が自在に会話などに活かせるようにしていきたい。

フランス語 F

小 玉 齋 夫

「フランスの地理・歴史・文化」

ことばの背景をつくりあげている、さまざまな風俗・習慣を、浅く広く、ということにはなるでしょうが、視聴覚の教材をも用いながら、なるべく多角的に、随時、基礎的な知識の再構成をはかりつつ、迎りなおし、ことばの習得への根拠を、あらためて、整備・形成していきたいと思います。

〔教科書・参考書〕 適宜指示します。

フランス語 FLL（初級）

松 岡 宏 一

学生諸君に LLL を受講すると同時に他のフランス語正科を何かひとつ聞いていただくことをお願いいたします。テキストは昨年同様 HACHETT 社の「LE FRANÇAIS ET LA VIE」を使います。（ただし使うページを重複しないように注意いたします。）音はテープを使用、教室は新装の LLL 教室を使います。

ともかく、会話というものは、ただ、だまって聞いていれば自分は何一つしゃべらなくとも上達するものだと考えているらしい学生諸君の思いちがいを矯正、聞きとりの訓練と、貝のように閉じられた口を開かせるために努力したい考えです。

学生諸君は教師にいびられているとは思わず、やさしくシゴカれているのだとお考え下さい。

〔教科書〕 LE FRANÇAIS ET LA VIE

フランス語 FLL（初級）

マドレーヌ・マルタン

フランスの視聴覚教材“Vive Voix”による実用フランス語会話入門。絵を使って単語の組合せ練習。さらに様々のシチュエーションに応じた表現方法に慣れさせ日常会話の基礎を養成する。テキストは教室で配布。

〔教科書〕 Vive Voix

フランス語 F L L (中級)

マドレーヌ・マルタン

初級クラスと同じ方法で、原則的には同テキストの7課または8課から始める。(履修学生の語学力によって多少の変更あり) 初級よりより一般的な会話を目的にする。

中国語 F

刈間文俊

主として2年次まで中国語を学んだものを対象とし、近年の文学作品をひろい読みする。1979年以降にわかに活発化した文壇から、世代やジャンルを越えて短編小説や詩などを選び、文学表現の面から中国語にどのような変化が起きつつあるかを考える一助としたい。巴金、王安憶、舒婷などの作品を読む。

〔教科書〕 開講時に教場で指示し、配布します。

中国語 F L L (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 プリントを配布する。

中国語 F L L (中級)

羅 漾 明

この授業は中国語初級 F L L で勉強した人及び2年間中国語を勉強した人又は同等学力を持っている人を対象とします。

会話を主として、中国映画などを補助教材として随時に使用します。

〔教科書〕 教室で指示します。

スペイン語 F

佐藤 玖美子

この授業は、1・2年で習得した知識を更に発展、深化させることを目指すものです。特に講読力と作文力の養成に力を入れたいと思います。テキストとしては、ス

ペインや中南米諸国の若者たちが書いた郷土紹介をコピーで用意する予定です。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

岡 沢 宏

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標とする。名文といわれる様々なスタイルのロシア語の文章に接することにより、ロシア語のもつメリハリのある美しさと力強さを味わっていただきたいと思う。

〔教科書〕 教場にて指示します。

ロシア語 F L L (初級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し、簡単なロシア話の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 『ロシア語を話しましょう』を使用する。

ロシア語 F L L (中級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

日本語 F（初級）（留学生対象）

杉山 秀子

本講座は昭和57年度に初めて設置された留学生のための日本語の随意科目である。日常生活における意志伝達にはさほど苦労しないが、若干こみいった内容の聴きとりや説明、正しい表記・用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後に細目について詳しく説明する。授業では最新の日本語教育用のビデオやスライド等を駆使しつつ現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

日本語 F（中級）（留学生対象）

大塚 純子

日本語 F の初級課程を終えたもの、あるいはそれと同等の学力を有する留学生を対象とし、日本語での発表能力や、表記・表現法をさらに高め、深化させていく。授業では適時、新聞・雑誌の読みあわせや、NHKの教養番組の聴きとり、ニュース解説、日本映画等のビデオ録画をとりあげて、偏りのない日本語の総合力を身につけることをめざしたい。

——週間に一度は必ず小テストをし、レポートの提出を義務づけるので授業はなるべく休まないこと。

〔教科書〕 教場にて指示します。

基礎教育科目

基礎仏教学

石井 修道

基礎仏教学とは、「一仏両祖伝」とも通称しているように、仏教を開いた釈尊と日本曹洞宗の高祖道元禪師と太祖瑩山禪師の伝記を学ぶものである。さまざまな参考書があるが、現在の研究状況を紹介しながら、釈尊伝を学び、ついで『三大尊行状記』の道元禪師伝、『諸嶽開山二祖禪師行録』の瑩山禪師伝の基本的な文献を読むことを中心に講義を進めていきたい。

〔教科書〕 プリント配布。

〔参考書〕 中村 元著『ブッダ最後の旅』（岩波書店）

基礎仏教学

石川 力山

仏教の開祖である釈尊と、日本曹洞宗において両祖と称されている道元禪師・瑩山禪師の生涯と思想について講義する。まず前期では、釈尊の伝記を中心に、仏教の基本的教理を概説し、インド・中国・日本の仏教にも触れて仏教の全体像を把握することを主眼とする。

後期では『三大尊行状記』の道元禪師伝、『洞谷五祖行実』の瑩山禪師伝について、直接原典（漢文）を読みながら両祖の伝記と思想について考え、あわせて、仏教学や禅学研究の方法・研究態度についても論及し、四年間の学習や研究の方向についてみんなで考えてみたい。

〔教科書〕 プリント使用。

〔参考書〕 水野弘元著『釈尊の生涯』（春秋社刊）

基礎仏教学

吉津 宜英

基礎仏教学とは禅学をも含めて広く仏教を対象とした学問を行う諸君に基礎的指針を与えようとするのである。まず、基礎的なことから第一は仏教が全世界の中でどのぐらいの広がりを持っているのかの確認である。今では仏教は全世界に広がっているとんでもないが、やはり中心になるのは南アジアから東アジアの地域である。これらの地方に一生を仏教にささげて多くの仏教者が出現し、彼らの言行が残されており、それらがすべて我々の研究対象となる。なかでも仏教の開祖ゴ

ータマ・ブッダの言行は先ず原点として把握されねばならない。そして、日本曹洞宗の父母とも称すべき、道元・瑩山両禪師の行実にも焦点をあててみたい。

仏書解説Ⅰ

伊藤 秀憲

仏書解説Ⅰは禅籍の解説である。この講座では、漢文に親しむということも考えて、禅籍244部について解説した『禅籍志』二巻を読みつつ講義を進めていきたい。本書で不足する禅籍については、補足して説明する。

〔教科書〕 『禅籍志』二巻 担当でコピーする。

〔参考書〕 『禅籍解題』（『禅家語録』筑摩書房）

仏書解説Ⅰ

峯岸 孝哉

中国で成立し展開をとげた禅仏教の基本的文献を順次とりあげ解説を加える。

〔参考書〕 『禅語録』〔世界の名著続・3〕（中央公論社）

仏書解説Ⅰ

原田 弘道

本講義の内容は「禅籍解説」である。

まず中国・日本に亘って主要禅籍をそれぞれ、Ⅰ禅宗依用、読誦經典、Ⅱ祖録、Ⅲ史伝、Ⅳ生活規範、Ⅴ隨筆等の五類に分けて順次解説を行ってゆく。そして曹洞宗依用の典籍の解説には特に意を用い、あわせて禅籍の全体的体系的理解を目指す。

〔参考書〕 岡田宜法『禅学研究法とその資料』

仏書解説Ⅱ

岡部 和雄

本講義では禅籍を除いた仏教一般の各種典籍の中から、重要かつ著名なものを選び、仏書全体の中でどのような位置を占めるか、その内容および特色、後代への影響などをわかりやすく解説する。仏書をどのように読む

か、研究にどう活用するかという具体的な問題についても適宜言及することにした。

〔教科書〕 『仏典解題事典』 (春秋社) ¥ 3,800

仏書解説Ⅱ

池田魯参

インド・中国・朝鮮半島・日本あるいは東南アジア・チベットなどの諸地域に展開する仏教史の全般を通じ、著名な仏書を取りあげ、仏教研究の領域や問題点などを明らかにするのが中心課題である。ブッダの覚悟の内容や教団運営について表明する主要な経・律・論を重点的に取りあげて、個々の仏典の成立状況や内容・伝播・影響などの観点から、諸典籍間の関係を体系的に把握し、仏教研究の基礎知識を修得するよう心がける。

〔教科書〕 『仏典解題事典』 (春秋社)

仏書解説Ⅱ

皆川広義

印度、中国、日本仏教における禅籍を除いた代表的な仏教書について解説する。特に、教主釈尊の教えをふまえて思想的関連の上から考察し、仏教研究のための基礎的資料を把握できるようにしたい。

〔教科書〕 『仏典解題事典』 (春秋社)

〔参考書〕 『お経の話』 (岩波書店)

仏教語解説

新井勝龍

仏教が西洋の思想に対し、特に難解であるといわれる理由の一つに、専門用語の特殊性があげられている。思うにその特殊性を構成する最大の要因は、さとり尊重の宗教として、主体的な体験の中から産み出されてきた用語であることによる。又それが故に、同じ用語でも時代的社会的に、使用される場合に依じて、異なった意味やニュアンスが与えられてきたことによる。

本講座はこれらに留意しながら、最終的には禅書における用法に焦点をしばって、入門の手引きとした。

〔教科書〕 水野弘元『仏教要語の基礎知識』 (春秋社)

仏教語解説

伊藤隆寿

日本を代表する、鎌倉時代の仏教者凝然の『八宗綱要』を読みながら、仏教語に対する基本的知識を得ると共に、仏教漢文を読むことにも慣れるようにしたい。

『八宗綱要』は、三国仏法の略史と俱舎・成実・律・法相・三論・天台・華嚴・真言の各宗を解説し、最後に禅宗と浄土宗を附記しており、主要なる仏教語と教理を説くをほぼ網羅する。今回は、律宗の頃から読むことにしたい。

〔教科書〕 大日本仏教全書第3巻のコピー

〔参考書〕 鎌田茂雄『八宗綱要』 (講談社学術文庫)

平川 彰『八宗綱要』(上・下)(大蔵出版)

仏教語解説

石川力山

これから本格的に仏教を学ぶためには、まず基本的な仏教用語に習熟することが必要である。仏教用語は普通の辞書には載っていないような特殊な読み方、独特の意味を持っている場合が多い。また仏教を学ぶ者にとって、仏教漢文の素養を身につけることは必要欠くべからざる条件である。この講義では、仏教各派の歴史や教理を概説した『八宗綱要』をテキストとして用い、これを読み進めながら、基本的な仏教用語や仏教教理について解説を加え、あわせて仏教漢文の読み方についても習得できるようにしたい。

〔教科書〕 『八宗綱要鈔』 (永田文昌堂刊)

〔参考書〕 鎌田茂雄『八宗綱要』 (講談社学術文庫)

平川 彰『八宗綱要』(上・下)(大蔵出版刊)

専門教育科目

禅学概論

鏡島元隆

初めに禅の歴史について、インド・中国・日本にいたる概要を述べ、後に禅の人間観・存在観・社会観・修行観・生活観等について述べ、終りに禅の現代的意義について述べる。

禅学思想史

峯岸孝哉

日本曹洞宗の思想的展開をたどり、その歴史的 성격について考える。この背景として重要な意味をもつ教団の展開には十分考慮したい。

〔参考書〕 『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕(春秋社)

禅宗史Ⅰ

田中良昭

禅宗史Ⅰは中国禅宗史をその内容とする。釈尊以来仏教の実践道として重んじられた禅が中国へ伝えられ、菩提達摩を初祖とする系統が、中国固有の思想や仏教諸宗と交渉しつつ、中国禅宗を形成し発展した。従って、達摩渡来以前の禅の流れを導入とし、達摩の渡来から禅宗の成立に至る成立の歴史と、その後五家に分れて各々その特色を発揮する発展の歴史に分けて考察する。

禅宗史Ⅱ

原田弘道

禅宗史Ⅱの内容は日本禅宗史である。

我国に伝来した禅は、その主流となって類型を異にするものが五つあったと考えられる。これらを中心にして禅宗の発展の歴史を考察する。内容は伝来、受容・発展の実態とその思想的意義の両面からとりあげてゆく。

〔参考書〕 講座禅第四巻『禅の歴史—日本—』(筑摩書房)

鈴木泰山『禅宗の地方発展』(吉川弘文館)

禅学実習Ⅰ

酒井得元・河村孝道
小坂機融

禅学は坐禅を根本とする宗教の学問的作業である。学問はあくまで問題を究明することであるが万全の道ではない。究極はむしろ禅学の根本を実修する坐禅にこそ求められなければならない。禅学する者に坐禅が常に実修されないなら真の禅学とは言えない。故に坐禅の実習に当っては坐禅における入堂・坐禅・経行・提唱・出堂の一切が厳粛に行持されていくことになる。従ってこのためには次のような基本的心構えが必要である。即ち時間を厳守し始鈴前に全員入堂端坐していること、常に威儀服装を正すこと、毎時間出席参禅して怠休することは決して許されないこと、追再試・レポート提出等による単位取得は一切認められないこと等である。なお4月最初の授業は坐禅堂における進退作法、席次を指示するので必ず受講すること。

〔教科書〕 『普勧坐禅儀』 『正法眼藏坐禅儀』 『経行軌』 等配布。

禅学実習Ⅱ

鈴木格禅・伊藤秀憲

一講時を二分し、前半は専ら只管打坐、経行を挿んで後半を『坐禅用心記』の提唱にあてる。授業の実施要領および基本的心構え等については、「禅学実習Ⅰ」に全く同じ。

講本は全員同じものを使用することが望ましいので、下記の要領にしたがってほしい。

遅刻を認めず、追再試あるいはレポート提出等による救済措置は一切講じられないから、このことを予めよく承知しておくこと。

〔教科書〕 『曹洞宗全書』宗源(下)。423頁～427頁までをコピーし、厚目の表紙をつけ、指示にしたがって、学科学年・単番号・氏名を、大きく明記すること。

禅学讲义

小坂機融

中国禅宗成立初期の語録中、禅旨を詩文によって表詮した「参同契」、「宝鏡三昧」、「証道歌」について順次講義する。まずこれら語録の成立流伝の歴史的背景を考察し、その上で当該語録について講じ、各祖師の挙揚した宗義宗風を明らかにする。今年度は「参同契・宝鏡三昧歌」を中心にして講義する。

〔教科書〕 『参同契宝鏡三昧纂解』（教場で指示）。

〔参考書〕 『曹洞禅讲义』、『禅の語録16』、『講座禅第六巻』。

禅学演習 I

青龍宗二

従容録・碧巖録・無門関を順次に演習して、中国禅者の体得せる公案・悟道の世界を把握しながら、中国禅の特異性を追求してゆく。本年は従容録の予定。

〔教科書〕 講義の際に指示する。

〔参考書〕 『曹洞禅讲义』

禅学演習 II

河村孝道

「永平語録」・「洞山録」・「臨濟録」の各祖録を一年ずつ講読演習してゆくもので、演習を通して祖録参究の視点と禅語への慣熟、および各祖師の人格とその宗風の把握とを主目的とする。

〔教科書〕 教場で指示する。

宗典講読 I

新井勝龍

道元禅師親撰『学道用心集』を講読する。正法眼蔵が本証妙修の本証面に比重があるとすれば、学道用心集は修証面に強調点があり、全篇を修行の心得として十章に分け組織的に示されたものである。

従って小篇ではあるが、日本曹洞宗の学道の概要が述べられており、また説示が簡明であるため、古くから曹洞禅入門のテキストとして用いられてきた。本学で禅学科の必修最初の講座におかれているのも、この伝統をうけているからである。

講読に際しては、始めに史的ないし書誌的に本書の位置づけをし、ついで思想的に道元禅師の一方究尽・本証

妙修の根本道理をほりさげてゆきたい。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 岸沢惟安提唱『学道用心集讲义』
増永靈鳳『学道の用心』

宗典講読 II

若月正吾

前段においては、中国における清規の歴史とその概要を講述し、さらに道元禅師の清規の特異性を明らかにする。後段においてはテキストを使用して「典座教訓」を講義する。

〔教科書〕 『典座教訓』（指示する）

宗典講義 I

酒井得元

この講座は仏教学部3年次の必修科目として道元禅師の正法眼蔵を講義する。本年度は「葛藤」「嗣書」の巻を講ずる予定である。使用テキストは当方で用意があるので配布する。しかし本学生は必ず正法眼蔵の全巻の所持が望ましい。それには次の諸本が出版されている。本山版正法眼蔵（鴻盟社）道元禅師全集上巻（筑摩書房）岩波思想大系「道元」二巻がある。

宗典講義 II

光地英学

太祖瑩山の生涯、瑩祖の撰述、「伝光録」の書誌学的考察、「伝光録」の精神、「伝光録」の本文講解。

〔教科書〕 『冠註 瑩山禅師伝光録』（学内、駒沢書店）

日用經典

櫻井秀雄

曹洞宗常用經典・祖典の解題、および回向文と各種疏などに表われる文意の解明を通して、実践宗学の実際を究明する。

〔教科書〕 櫻井秀雄『曹洞宗回向文讲义』 ¥ 450
『続曹洞宗回向文讲义』 ¥ 500

禅学特講 I

原田弘道

公案禅の成立発展と日本禅

公案禅(看話禅)が成立したのは宋代である。叢林の性格変化がこれをうながしたといつてよい。この問題に関し、叢林の社会経済的背景、叢林の性格変化、叢林の運営理念の変化とその実際、修行観の変化、禅思想の変化等多角的有機的な連関のもとに究明して、その成立の意義を明らかにする。次に道元禅と公案禅、および日本における曹洞宗と臨済宗についても、同様の視点から取りあげて両宗の立場を明らかにしてゆきたい。

公案の意義、公案の起源と歴史、禅思想および叢林の性格変化、公案禅の成立、公案禅と黙照禅、宋朝禅と道元禅、曹洞宗と臨済宗等大略以上の順序で講義を進める。

禅学特講 II

鏡島元隆

宗学思想史 天童如浄禅師から道元禅師およびその門下にいたる禅の展開について述べる。

禅学特講 IV

鈴木格禅

面山瑞方撰『自受用三昧』講読

面山瑞方(1683~1769)は、道元禅師の伝法挙揚のために、一生を捧げつくした江戸時代の大学僧である。本書は面山が、只管打坐を仰慕し参学する在家人に、修証の資助として書き與えた仮名法語であり、平明な祖述の中に幽遠の義を包蔵した佳篇である。

今年度は本書を素材としながら、深くその宗教的世界を学んでゆきたい。

〔教科書〕『統 曹洞宗全書』法語・歌頌。463頁から488頁までをコピーすること。

禅 特 講

椎名宏雄

禅宗カナ法語の講読

カナ法語とは、仏教思想を道俗に対して平易に説き示

すために、カナ文字であらわした語録をいう。したがって、それは漢文の語録に比較して、みずみずしい具体性と深い思想性に富むという長所をもつ。禅門には、こうしたカナ法語が多い。

本年は、江戸時代初期から中期にかけて禅門の巨匠として知られる沢庵・月舟・白隠、三者の法語を読む。すなわち、沢庵の『不動智神妙録』、月舟の『月舟和尚夜話』、白隠の『白隠和尚仮名法語』の三篇を講読し、大平の時代にあつて彼等がいかに特徴ある禅風を挙揚しているかを味わってみたい。

〔教科書〕プリント資料を配布する。

詩 偈

山口晴通

我が宗門の教義と漢詩とは表裏一体の関係にある。「詩禅一如」といわれる所以である。本講座では、具体的に漢詩を読みながら、初歩的な漢詩の作り方を学習する。

漢和辞典の種類については授業中に指示説明をする。

〔教科書〕『詩偈入門(上)』(曹洞宗宗務庁刊行)

¥ 1,000

〔参考書〕「漢和辞典」

禅 美 術

竹内尚次

禅林美術は禅宗教団の形成展開にともなつて自然に発生したもので、禅そのものとは明確に切断されなくてはならない。この禅林美術の本質を究めるために、上代仏教美術とくに平安初期に空海将来の密教美術と対比して考える。

なお、禅林美術の豊かな爛熟した開花と結実とを、その中心となる絵画作品群の主題を根柢から分析することによって、そのなかに在る本質を解明する。具体的には国宝・重要文化財のうち、テレビカルなものを探りあげて、教材すなわち研究対象として、現時点においてのデータを手がかりとして、いっしょに考えてみる。

〔参考書〕玉村竹二著『夢窓国師』(京都平楽寺書店)

同氏著『五山禅僧伝記集成』(至文閣)

竹内尚次著『近世禅林美術』(至文堂 日本美術シリーズ)

仏教概論

山内舜雄

仏身論・仏陀論を中心に、仏教一般に関する基礎的教

理を組織的に概説すると共に、各宗の主要教義を、できるだけ平易に解説する。

〔教科書〕 ノート講義とする。

印度仏教史

袴谷憲昭

インドにおける仏教の通史を講義すると共に、それとの関連において周辺文化に対する仏教の影響をも概説する。インドにおける仏教の教義的展開を、インド文化の歴史的時間の流れの中に位置づけてみることは無論のことであるが、いまだ未解明の仏教史的問題についても、いくつかの絞って講義を与えてみたい。

〔教科書〕 『仏教史概説』（平楽寺書店）

〔参考書〕 平川彰『インド仏教史』〔上・下〕（春秋社）

奈良康明『仏教史Ⅰ』（山川出版社）

中国仏教史

佐藤達文

隋代以降の中国仏教の流れを中心に考究したい。

〔教科書〕 『仏教史概説・中国篇』（平楽寺書店発行）

日本仏教史

山内舜雄

宇井伯寿著の日本仏教史概説を使用し、上代から中世を主とし、殊に鎌倉新仏教の成立と、その後の展開について詳究することを目的とする。

〔教科書〕 宇井伯寿著『日本仏教史概説』

仏教教理史Ⅰ（印度）

平井俊栄

インドにおける仏教教理の展開を歴史的に講義する。釈尊の根本教説にはじまって、原始仏教、部派仏教（小乗仏教）、大乘仏教、さらに中観、瑜伽両学派の教理について講ずる。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）の第2部「インドの仏教」

〔参考書〕 平川彰『インド仏教史』〔上・下〕（春秋社）

仏教教理史Ⅱ（中国）

田中良昭

中国における仏教教理の展開を歴史的に考察する。外来宗教としての仏教が、中国固有の宗教と交差しつつ、訳経、義解、研究、教判、宗派、実践、融合という過程を経て中国仏教として成立発展した歴史的展開を講述する。

〔教科書〕 鎌田茂雄著『中国仏教史』（岩波書店）

印度哲学史

金沢篤

ヴェーダ時代から現代にいたるまでのインド思想の流れを個々の文献の記述に即して概観する。

〔教科書〕 『インド思想史』（東京大学出版会）

¥ 3,000

経典講読Ⅰ

石川力山

前期では『法句経』『遺教経』を講読する。『法句経』は仏陀の言葉を集めた、最もすぐれた仏教入門書であり、人間の正しい生き方が仏陀の生の声で端的に示されている。『遺教経』は仏陀最後の遺誡で、禅門でも重要視され日常読誦されている経典であり、一緒に読みながら解説を加える。

後期は、一切法が空・無我であることを讀く代表的大乗仏典『金剛経』を講読する。『金剛経』は、中国・チベット・日本を通じて古くから広く流布した経典で、禅宗では六祖慧能以来特に重んじられ、注釈書も作られた。講義では、鳩摩羅什訳と玄奘訳を対比させながら、サンスクリット原典からの訳も参考に解説する。

〔教科書〕 プリント、『金剛般若経』（更生社）

〔参考書〕 『ブッダの真理のことば、感興のことば』『般若心経・金剛経』（岩波文庫）

経典講読Ⅱ

岡部和雄

大乘経典とくに初期に成立した般若、維摩、法華などの諸経には大乘思想が横溢している。この経典講読Ⅱではそれらの大乘諸経から適切なパッセージをとりだし、講読する。大乘仏教がそれ以前の仏教とどのように相違

するか、何をどう受けついで発達させたかを考える。

羅什訳を中心とするが、梵文やチベット訳についても必要があれば言及する。

仏典演習Ⅰ

佐藤達玄

諦観の「天台四教儀」を講読して、天台教学の大綱を考察する。

〔教科書〕各自プリントして用意すること。

仏典演習Ⅰ

吉津宜英

七十五法名目をテキストとして使用する。本書は玄奘訳俱舍論の綱要書であるから、はじめに俱舍論の組織内容と成立にもふれる。従って、大正蔵経第71巻の888 Pから859 Pまでをプリントし、ノート一冊を用意すること。次に大正蔵経本を各自で原稿用紙に写し取って各自のテキストにしてもらい、そこに読みや意味などを書き込んでいただくが、その写し方は教場で指示する。本書は大乗からすれば部派の教理と言えようが、この説一切有部の体系は大乗と密接な関連を有し、大乗に批判的に摂取されている。直接的には「法有」の立場を学ぶが、間接的に大乗の「法空」の思想にも言及しよう。

〔教科書〕プリント

〔参考書〕随時指示する。

仏典演習Ⅱ

池田魯参

『大乘起信論』の成立については、学者間に中国選述の議論がある位であるが、漢字仏教圏に与えた影響ははかり知れないものがある。慧遠・元暁・法蔵の三疏を代表として、中国・日本での末注書も二百数十種を数える。

『起信論』は、現実の生存を自性清浄心と指摘し、この実存が迷いと悟りに展開する理論をストレートに示す。熟した仏教語を各人が納得しつつ、仏教における救済の理論の枠組みを把握して頂く。

〔教科書〕平川 彰『大乘起信論』（大蔵出版）

仏典演習Ⅱ

伊藤隆寿

中国隋代の嘉祥大師吉蔵の『三論玄義』を講読する。本書を通して、吉蔵の三論学の特徴を理解することは勿論、竜樹の「中論」「十二門論」、提婆の「百論」の中心思想及びそれらの論書の成立背景を知り、空観仏教の中国的展開についても、理解を深めて頂きたいと思う。

〔教科書〕大正蔵経第45巻のコピー

〔参考書〕三枝充恵『三論玄義』〔仏典講座27〕（大蔵出版）

仏典研究

岡部和雄

漢訳仏典がどのようにして成立したかを考察する。とくに隋代以前に漢訳された諸経論について、諸経録の記載を比較しながら、訳経史研究の観点から解説を施したい。敦煌出土の仏典写本についても必要に応じてふれる。

仏教特講Ⅱ

納富常天

鎌倉仏教の成立過程と、その展開における諸問題について、史料に基づきながら考察する。

〔参考書〕『鎌倉新仏教思想の研究』（平楽寺書店）
¥ 4,000

仏教特講Ⅲ

鎌田茂雄

『華嚴五教章』を中心としながら、華嚴教学を概説する。

〔教科書〕『華嚴五教章』（大蔵出版） ¥ 3,000

仏教特講Ⅳ

太田久紀

成唯識論講読

末那識論を中心に我執・煩惱などについて考えたい。

〔教科書〕『選註成唯識論』（大正蔵経、国訳一切経等でも可）

仏教特講 V

佐藤達玄

宝唱撰「比丘尼伝」を講読し、中国仏教における比丘尼教団の姿を考究する。

〔教科書〕各自プリントして用意すること。

外国語仏書演習

吉津宜英

Kenneth Chén : Buddhism in China—A Historical Survey (1964, Princeton University press) をテキストとして使用する。本年度は Chapter XII, The Schools of Buddhism in China (continued) の The Ch'an School in China (P350) から読む。原則として上記テキストを購入すること。入手困難な時はコピーでもよい。コピーの場合には P495—P502 の Chinese Names and Titles も併わせ取っておくと便利である。

パーリ語 (初級)

福田孝雄

パーリ語の初級文法を、下記のテキストを用いて学習する。

〔教科書〕 AN ELEMENTARY GRAMMAR OF THE PĀLI LANGUAGE BY KEIKI HIGASHIMOTO (PRICE ¥ 1,800)

〔参考書〕水野弘元『パーリ語文法』

パーリ語 (上級)

福田孝雄

デンマークで出版された、Dines Andersen のパーリ語読本を用いて行う。Glossary がついているので、講読に極めて便利である。

〔教科書〕 A PĀLI READER WITH NOTES AND GLOSSARY (PRICE ¥ 2,300)

サンスクリット語 (初級)

金沢篤

仏教やヒンドゥー教などを理解するために重要なサン

スクリット語を、J・ゴンドラ著『サンスクリット語初等文法』を教科書として学習する。

〔教科書〕『サンスクリット語初等文法』(春秋社) ¥ 1,500

〔参考書〕『サンスクリット文法』(岩波書店) ¥ 1,700

サンスクリット語 (上級)

金沢篤

サンスクリット語 (初級) 文法に一通り親しんだ者を対象とする。比較的平明なサンスクリット語文献を実地に読むことを通じて、文法の基本的事項を確認し、実際の読解力を養う。テキストには、開講時に用意するプリントを用いる。

〔参考書〕『サンスクリット文法』(岩波書店) ¥ 1,700

『サンスクリット読本』(春秋社) ¥ 2,500

サンスクリット語演習

袴谷憲昭

これは、純然たるサンスクリット文学の演習ではないことを、まずお断りしておきたい。以下に示したテキストは、『大乘莊嚴經論』として漢訳もされた、仏教の特に唯識思想に関連するサンスクリット原典である。本演習では、このテキストを、サンスクリット仏典を読む訓練の一環として取上げる。これをまず当然の前提とした上で、集った学生の要求に応じて、必要とあらば、チベット関連資料にも目を通すことにしたい。本学年度は、「Prabhāvādhikāra (神通品)」(第7章)から読み始める。

〔教科書〕Sylvan L'evi (ed.), Mahāyanasūtrālaṅkāra

チベット語 (文法)

袴谷憲昭

チベット語は、チベットの文化はもとより、インド仏教の研究を志すものにとっても必須の語学であるということは最早今日では常識である。本科目は、チベット語 (文語) の特質を習得してもらうべく、下記の教科書に即して文法を教授する。ただし、教科書は未公刊につきコピーを用意するので、受講希望者は、開講初日に必ず出席し、その要不要を意志表示されたい。講義では、文法教授のかたわら、チベット撰述文献等の選文を用意

し、読解力の増進に役立てたいと考えている。

〔教科書〕 山口瑞鳳『チベット語文法』

チベット語（講読）

山口 瑞 鳳

インド大小乗仏教、チベット仏教における教理や、チベット語に訳出された仏典を利用して仏教を学びたいと思う人たちの為に、11世紀にチベットに入国してこの国の仏教界を指導した Atiśa (982—1054) による著作『菩提道燈論』Bodhimārgapradīpa の自注本を読む。数多くの経や論の引用文を見ることによって各種の文体に慣れるが、同時に注釈書の表現法を領解し、インド大乘仏教の基本的な考え方も学ぶことが出来る。聴講者はチベット語文典を学んだものであることが望ましいが、文字を習得し終えたものであれば、熱意次第で受講は可能である。

〔教科書〕 デルゲ版、北京版による同書のゼロックスコピーを用いる。

ラテン語特講

佐 藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読も行いたいと思います。

〔教科書〕 『詳解ラテン文法』（研究社）

宗 教 学 概 論

松 本 皓 一

今回は、とくに自己（セルフ）の問題を手がかりとして宗教と人間の関係を考えてみる。

〔参考書〕 講義中、随時指示する。

宗 教 史

松 本 皓 一

主要な宗教の歴史を考察しながら、比較宗教史の立場から諸宗教の特質を明らかにし人間と宗教のふれ合いを歴史の場の中で捉えてゆく。

〔教科書〕 『世界の宗教』（大明堂）

キリスト教史

秀 村 欣 二

仏教・イスラム教などとならんで世界宗教の一つで、現代世界にも大きな影響力をもつキリスト教の歴史を、イエスの時代より現代まで概説する。キリスト教の方典・美術などの紹介、比較宗教的なアプローチをも併せて行なうつもりである。

〔教科書〕 R.H.ペイントン著 気賀重躬・気賀健生訳『世界キリスト教史物語』（教文館）
¥ 1,800

神 道 概 説

土 岐 昌 訓

講義の前半は、巨視的な観点から神道の基本的な問題を取り挙げて、解説することを試み、後半は特に神社信仰に焦点をあてた話を展開してみたい。

〔参考書〕 土岐・白井共編『神社辞典』（東京堂出版）

各宗綱要（真言学）

福 田 亮 成

弘法大師空海の教学を、著作の読解によって体系的に学ぶことにしたい。その内、まず成仏論を中心とし、『即身成仏義』を最初に読解することにする。その他、必要に応じて、空海教学の諸問題にもふれたい。

〔教科書〕 『弘法大師全集』第一輯 部分プリント

〔参考書〕 『弘法大師著作全集』第1・2・3（山喜房）

仏 教 美 術

林 良 一

仏教美術の図像学ならびに古代インド美術の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、原地撮影のカラー・スライドによって映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

仏 教 民 俗 学

和 田 謙 寿

文化財の集いや郷土史研究会などに臨んだ時、必ず仏

教文化的な知識が必要となってくる。また、葬式や法事などに出かけると必ず仏事などに関する質問を受けるものである。このような場合に対処できるように、冠婚葬祭のうち、特に葬祭の面に比重を置き、今年の講座を進めて行きたいと思う。なお、実地巡検や特殊ゼミを実施する場合もあるので、年額1～2万円位の費用を用意する必要があると思う。

〔教科書〕 和田謙寿著「仏教の発展—民俗学・歴史地理学的考察—」（仏教民俗学研究会発行）
¥ 2,900

宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と實際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会編『現代青少年の宗教意識抄』

教化法

皆川広義

仏教における伝道法について、理論と実践との二面より概説したい。この場合、伝道とは教えを宣布する布教活動と、その教えにより対機を育成する教化活動を意味する。

理論面からは、教義、対機、伝道者及び伝道法の三点より、現代における仏教伝道のあり方をさぐる。

実践面からは、教えの宣布を中心とした布教活動と、教えにより教化育成する教化活動に分けて現場における実践として具体的に考察する。

青少年教化法

皆川広義

仏教における青少年教化活動について概説し、次に、対機論と集団教化及び個人教化法を特にとりあげて詳説したい。

対機論では、近代の諸科学の人間研究や仏教の人間観などをふまえて、幼児、少年、青年と身心の発達にそいながら特色及び行動などをさぐり、教化のあり方を求める。

集団教化法では、仏教青年会、禪的合宿研修（禅の集い・禅の家）スカウト・日校・子ども会などを、個人教化法では、人生相談・信仰誘引法など具体的に考察する。

青少年問題研究

和田謙寿

中学校や高等学校の教師をめざす者。または、青少年の指導者を志す人を対象とし、理論と現実の両者をつめつつ講義を行いたい。特に学校の教師になる場合は、専攻した学科は当然の事、受持クラスの生活指導にも大きな比重をかけて尽くさねばならぬ。その点に深く留意して授業をすすめる事にする。（特に少年の問題に興味のある者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法であろう。）家庭内暴力・校内暴力・暴走族・薬物乱用など、種々社会問題としてとりあげられているが、これらの問題も時間の許す限り取組みたいと思っている。教科書は考慮中。

青少年指導演習

和田謙寿

国や地方公共団体が年々増加する青少年の非行化に対応して万全の策を尽しているが焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済まされるものでなく、現実面からの考察が必要である。将来、少年補導員や青少年指導員、民生委員（児童委員）社会教育主事や福祉主事、生活指導教諭等に従事しようと希望する人々には是非とも必要な講座である。最近の新聞報道によれば現在の学校教師や福祉主事の仕事を果すためには、青少年の非行化は正指導に通じていなければ用をなさないと言われている。この線にそって、少年補導学、ケース・ワークを中心に進めて行きたい。

哲学概説

斎藤知正

哲学は元来、外に対象に向う認識としてではなく、内に反省する主観の自覚たることを本質とする学問である。本講は哲学の外延的な概観よりも、内包的にその全体に通ずる本質への反省に主眼を置いて話をすすめる。

〔教科書・参考書〕 教室で示す。

現代哲学概説

中島盛夫

ヘーゲル以後から今世紀中葉までの哲学思潮の大筋を講ずる。理性の形而上学の、人間学、社会理論、宗教哲学への解体をフオイエルバッハ、マルクス、キルケゴ-

ル、ニーチェ等に跡づける。世紀の変わり目の哲学者ベルクソンに、現代における時間性概念の出発点を求め、フッサール、ハイデガーにその現象学的深化を見たい。これと前後して新カント派の意義、盛衰に触れる。第二次大戦後の哲学状況をサルトル、メルロ・ポンティを中心として捉え、現象学・実存主義から構造主義への転換をも粗描したい。

〔教科書・参考書〕 教室にて指示する。

哲 学 史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあつづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。

〔教科書〕 服部英武郎『西洋古代中世哲学史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕 その都度指示する。

哲 学 演 習

齋 藤 知 正

本年度は、オクスフォード大学教授ジョン・マコーリー（John Macquarrie）の最近の著 *In Search of Humanity — A Theological and philosophical Approach —* (1982) を英文で読みながら、問題を考えてゆくことにする。テキストはコピーを（抜粋）作ることにする。出席者の人数も制限するので、開講第二週目ぐらいに、受講者を決定する。

中国文学概論

飯 田 利 行

国語教師として必要な中学文学教養と知識の習得に重きをおく。したがって日本文学を基盤にしての中国文学の概観を試みる。

〔教科書〕 『中国文学概論』（中国・日本史文研究会）
¥ 1,000

中国文学演習

飯 田 利 行

中国文学史上、曾てみなかった文学革命の先駆良寛詩

の特色と人間像を詩を通して味読させる。

〔教科書〕 『良寛詩集訳』（大法輪閣） ¥ 2,400

東洋思想研究

船 津 富 彦

東洋の思想はいろいろな面から取りあげて研究することが出来るが、本年度は主に中国の文学を主材として、それ自体の主張と、儒・仏などの関係を加味して、歴史的にその発展を考察してみたい。

心理学概論

篠 原 英 寿

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版）

禅学研究

青 龍 宗 二

この講座は必修科目の時から内容が規定されているので、それを継承してゆくが、その内容とは宗意・禅戒・清規のいわゆる曹洞宗の根本教学である。その意味で宗学を専攻する者は必然的に参究しなければならない宗学上の主要課題である。

そのため宗意の根本基調である本証妙修の教理的構造を分析して、その意義を理解せしめると共に、本証の妙修としての禅戒・清規思想を参究してゆく。

〔参考書〕 教場で指示する。

禅籍講義

青 龍 宗 二

中国禅籍を講読してゆく。特に宗学の立場から、六祖壇経および南嶽下の禅語録を中心として、その原意を把握しながら、中国禅確立期の特異性および道元禅との異同を明らかにする。

〔教科書〕 燉煌本『六祖壇経』（コピーを配布）

〔参考書〕 教場で指示する。

演 習 I

永 井 政 之

百丈懷海（749～814）の語録を読む。百丈の語録はもと宋代に『四家語録』の一として、馬祖・黃檗・臨済の語録とともにまとめられたものを最古とするが、現存のものは明代の再編で、これが『古尊宿語録』巻1・2に収録される。さらに百丈には『百丈清規』の一部とされる『禪門規式』がある。これらのテキスト、及び『祖堂集』『伝灯録』などに収録される百丈の語を読みつつ、その思想を考えてみる。

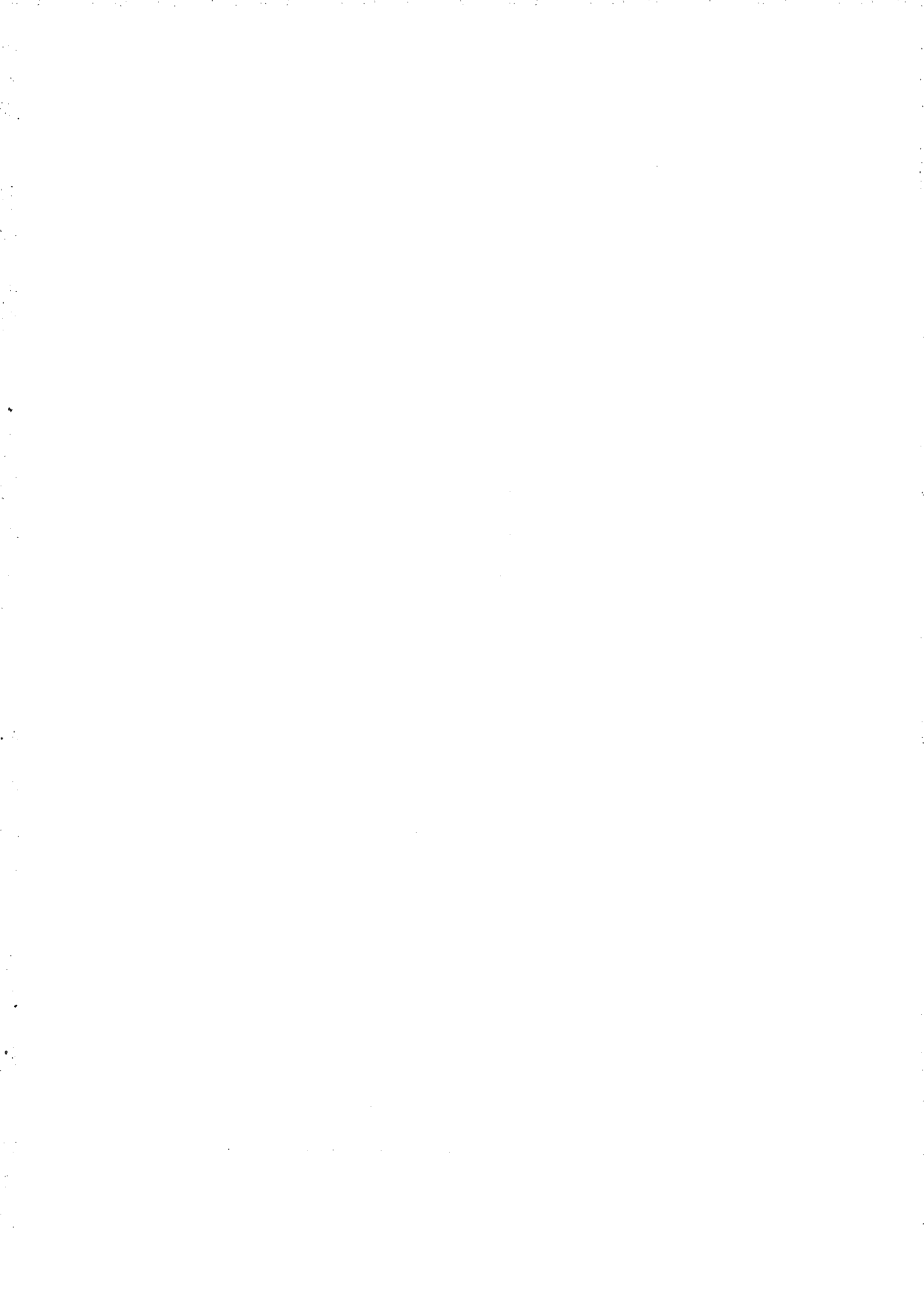
〔教科書〕 柳田聖山主編『四家語録・五家語録』（中文出版社）コピーにて配布。

教職および資格講座

教 職 課 程
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座
博 物 館 学 講 座
社 会 福 祉 主 事 講 座
社 会 教 育 主 事 講 座

※ 上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講出来る課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座受講の手びき」を参照）

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	文 学 部 ・ 仏 教 学 部
社 会 福 祉 主 事 講 座	文 学 部 ・ 仏 教 学 部
社 会 教 育 主 事 講 座	文 学 部 ・ 経 済 学 部 ・ 法 学 部 ・ 経 営 学 部



目

次

教育原理(上岡 安彦)	1	哲学特講Ⅱ(西洋)(国嶋 一則)	7
教育原理(村山 輝吉)	1	宗教学特講Ⅰ(松田 文雄)	7
教育原理(坂本 信昭)	1	宗教学特講Ⅱ(脇本 平也)	7
教育原理(木戸 三子)	1	宗教学特講Ⅲ(洗 建)	7
青年心理学(大浜幾久子)	1	教育史(磯野 昌藏)	8
青年心理学(武井 澄江)	1	宗教教育(櫻井 秀雄)	8
青年心理学(牟田 悦子)	1	教育関係法規(木戸 三子)	8
青年心理学(渡辺三和子)	1	教育関係法規(船木 正文)	8
教育心理学(大浜幾久子)	2	図書館学Ⅰ(若林元典・山崎慶子)	8
教育心理学(武井 澄江)	2	図書館学Ⅱ(若林 元典)	8
教育心理学(中村 均)	2	博物館学(倉田 芳郎)	8
教育心理学(渡辺三和子)	2	博物館実習Ⅰ(館務)(倉田芳郎・鶴丸俊明) ..	9
道德教育の研究(半期)(万羽 晴夫)	2	博物館実習Ⅱ(収集)(倉田芳郎・葉貫磨哉 所理喜夫・伊藤玄三) ..	9
教育実習(上岡 安彦)	2	博物館実習Ⅲ(見学)(倉田芳郎・狩野千秋) ..	9
教育実習(村山 輝吉)	2	博物館実習Ⅳ(特講)(石井則孝)	9
教育実習(坂本 信昭)	3	視聴覚教育(赤堀 正宜)	9
教育実習(木戸 三子)	3	日本文化史Ⅱ(圭室 文雄)	9
国語科教育法(神谷 道倫)	3	西洋文化史Ⅰ(椽川 一朗)	9
書道科教育法(谷村 義雄)	3	西洋文化史Ⅱ(阿部 重雄)	9
宗教科教育法(松本 皓一)	3	仏教美術(林 良一)	10
英語科教育法(大沢 一雄)	3	現代美術(中山 典夫)	10
社会科教育法(地理)(高木 久)	3	禅美術(竹内 尚次)	10
社会科教育法(地理)(中島 義一)	3	美術史概説(林 良一)	10
社会科教育法(歴史)(野呂 肖生)	4	西域美術史(林 良一)	10
社会科教育法(谷敷 正光)	4	考古学概説Ⅰ(日本)(倉田 芳郎)	10
社会科教育法(古屋野素材)	4	考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次)	10
社会科教育法(大久保治男)	4	考古学特講Ⅰ(飯島 武次)	10
職業科教育法(山田 勇治)	4	考古学特講Ⅲ(狩野 千秋)	10
商業科教育法(谷敷 正光)	5	日本民俗学(小島 清志)	11
商業実習(前田 幸一)	5	仏教民俗学(和田 謙寿)	11
職業指導(山田 勇治)	5	宗教人類学(佐々木宏幹)	11
産業概説(和田 禎一)	5	考古発掘実習(飯島 武次)	11
世界史概説(前田 正名)	5	社会福祉概論(高橋 重宏)	11
世界史概説(青木 道彦)	6	障害福祉論(原田 信一)	11
日本史概説(芥川 龍男)	6	社会福祉実習Ⅰ(原田 信一)	11
地誌学概説(今朝洞重美)	6	社会福祉法制(小林 弘人)	12
地誌学概説(長野 覚)	6	公的扶助論(小沼 正)	12
地誌学概説(渡辺 盾夫)	6	児童福祉論(原田 信一)	12
自然地理学概説(早船 元峰)	6	老人福祉論(奥山 正司)	12
人文地理学概説(高木 久)	6	社会保障概論(小沼 正)	12
社会学原論(渡辺 源樹)	6	地域福祉論(岡田 真)	13
経済原論(小野 俊夫)	7	ケースワーク論(高橋 重宏)	13
政治学原論(飯山 勇)	7	グループワーク論(松本 栄二)	13
民法Ⅰ(鶴井 俊吉)	7	社会福祉事業発達史(林 千代)	13
哲学特講Ⅰ(東洋)(篠原寿雄)	7		

母子福祉論（林 千代）	13
医療社会事業論（春見 静子）	14
社会福祉方法総論（高橋 重宏）	14
社会福祉管理運営論（重田 信一）	14
リハビリテーション論（原田 信一）	14
社会教育概論（磯野 昌蔵）	14
社会教育方法論（磯野 昌蔵）	14
社会教育行政財政（酒匂 一雄）	14
教育社会学（村山 輝吉）	15
社会心理学（坪井 健）	15
社会教育施設（村山 輝吉）	15
児童教化（富田 博之）	15
青少年問題研究（和田 謙寿）	15
青少年指導演習（和田 謙寿）	15
社会教育演習（上岡 安彦）	16
教育評価（大浜幾久子）	16
教育法規研究（神田 修）	16
成人指導及青少年指導（酒匂 一雄）	16
生活指導（秋山さと子）	16
教育哲学（汐見 稔幸）	16
教育調査（大塚 雄作）	17

教育原理

上岡安彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次にそこで、でてくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』〔上・中・下〕(岩波文庫)

上 ¥ 550, 中 ¥ 450, 下 ¥ 450

『教育学研究入門』(東大出版会)

¥ 1,800

教育原理

村山輝吉

下村湖人ほか二・三の教育論を紹介しながら、教育とは何かについて、その目的・内容・方法・制度・歴史と現状、展望と課題等にわたって講じる。

教育原理

坂本信昭

1. 教育とは何か
2. 教育の目的
3. 教育の内容
4. 教育の方法
 - (1) 学習指導
 - (2) 生活指導
5. 教育の経営
6. 教育の制度
7. 教師

おおむね上記についてテキストにそって論究していきます。

〔教科書〕教師養成研究会編『教育原理』

〔参考書〕デューイ著・宮原誠一訳『学校と社会』
(岩波文庫) その他授業で適宜紹介する。

教育原理

木戸三子

前半は教育について何がその基本的な問題であるかを考え、後半はそれにもとづき青年期や青年期教育について

検討する。(テキストを定め読み合うこともありうる。)

青年心理学

大浜幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題をとりあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

青年心理学

武井澄江

青年期を乳幼児、児童期から成人への発達系列の中に位置づける。その上で、人間に特有だといわれるこの時期の発達上の特徴をとらえていく。特に、人格、人間関係、価値観など社会的生活の側面が中心となるだろう。なお、講義の中で、人格検査等の実習も行う予定である。

青年心理学

牟田悦子

青年期は、時間的な展望の中で自己を再編成する時期であるといわれるが、人間の発達の流れの中での青年期を理解すると共に、教師が、今の教育の現場で出会うさまざまな問題にかかわるとき、どのような基本的な視点をもちうるかについて共に考えていきたい。

〔教科書〕藤永保也編『青年心理学 テキストブック 心理学(5)』(有斐閣) ¥ 1,200

青年心理学

渡辺三和子

前期は人格が形成されるとはどういうことか、青年期は人格の形成にとってどんな位置にあるのか、青年期の特徴は何か、等を検討する。後期は、中・高校生に起こりがちな問題行動について述べる。

教育心理学

大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

教育心理学

武 井 澄 江

「発達」「学習」「パーソナリティーと適応」「集団」「評価」などに関する心理学的知見を概説する。心理テストの実習も含む。

教育心理学

中 村 均

子どもが大人になる途上でどのような変貌をとげ、それにはどんな規則性または特殊性があるか、年齢との関連で(発達)および特定の訓練や経験との関連で(学習)検討する。また、そういった事柄が一人一人でどんな風に違うか(個人差)、個人差が教室や家庭での適応にどう影響するか、これまでの知見を紹介する。

〔教科書〕『目でみる教育心理学』(ナカニシヤ出版)
¥ 1,500

教育心理学

渡 辺 三和子

前期は教育を受ける子どもをよりよく理解するために次の点を考察する。発達と学習、学習活動のメカニズム、知的な発達のみならず、動機づけ、個人差について。

後期は、教育方法と評価について述べる。個人差に応じた教育とは。さまざまな授業方法の試み、評価の方法について。

道徳教育の研究(半期)

万 羽 晴 夫

昨年度は、公教育の近代の原則をふまえながらもとりたてて道徳教育を行うことの根拠として、根源的価値意識論に言及した。今年度は、それを発展させる意図の下に、人格形成学校としての今日の学校の任務と役割を明らかにしつつ、子どもたちの抱える様々な問題を考えながら、道徳教育の今日的課題に迫ってみたい。また他方で、根源的価値意識論そのものの倫理的検討も行ってみたいと考えている。

〔参考書〕中野光・藤田昌士編『史料道徳教育』(総合労働研究所) ¥ 2,000

教育実習

上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習, カリキュラム編成実習

訪問指導

実習期間中の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』(大蔵省印刷局) ¥ 250

『高等学校 学習指導要領』(大蔵省印刷局) ¥ 300

デューイ『学校と社会』(岩波文庫)

¥ 300

教育実習

村 山 輝 吉

教育実習に主体的にとりくみ、教育についての理解と関心が深まるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

現場における実習体験をはさんで、講義・討議・レポート作成・面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

坂本信昭

駒沢大学の教育実習は“通年履修”となっており、教育実習前後の大学での授業はおおむね下記のとおりに進めます。

教育実習前の段階では、(1)教育実習の意義及び目標・内容(領域)に関する講義とそれに並行して、(2)実習校における教育実習の事例を示し、(3)教育実習の心得などについての事前指導を行なう。

教育実習後は、(1)教育実習の口答報告、(2)レポート作成→提出、(3)グループ編成による授業(ディスカッション)を行ない教育への理解を深め、望ましい教師のあり方などについて考える、いわゆる事後指導を行なう。

〔参考書〕大村はま『教えるということ』(共文社)など、授業で適宜紹介する。

教育実習

木戸三子

前半は教育実習についての諸注意や心構えについて述べることを中心とし、後半は実習体験をもとにして、教育現場の諸問題や学習指導や生活指導のあり方を考える。

国語科教育法

神谷道倫

中学校・高等学校の国語科教育の意義・動向、ならびに学習内容(領域)、教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、しかるのち実際の教材にあたって、教材研究のあり方、指導事項、方法等々、主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法(新版)』(桜楓社) ¥ 880

書道科教育法

谷村義雄

中学および高校に於ける書教育が近年やや低調であるといわれるのは、専門の教員の実力の貧困に起因することが大きい。書教育の現場教師として必須の条件は何かを考え、これを充すにはどうすべきかを講じたい。また

理論として書論の講読演習を行なう。

〔参考書〕『中国書論集』(二玄社刊)

宗教科教育法

松本皓一

宗教科教育に際しての理論的な基本問題、現実に教師となって必要とされる実際上の諸問題を講義する。カリキュラム作成や教材研究等に主眼をおく。

〔参考書〕講義中適時指示してゆく。

英語科教育法

大沢一雄

各種教授法について述べたあとで、新しい教授法がどうあるべきかを考える。なお、初級から上級までの各段階の英語教授について演習をおこなう。

社会科教育法(地理)

高木久

1. 生徒指導を中心とした教師の在り方
2. 地理学方法論の確認
3. 地理教育について
4. 新学習指導要領の内容
5. 地図指導
6. 教育実習の意義
7. 学習指導案の研究
8. 模擬授業

前期において講義を中心とし、後期においては教室での演習を専一とし、その批判・反省を行なって行く。

社会科教育法(地理)

中島義一

年度の当初は社会科教育の実際的方法につき、担当者の経験にもとづき講義する。後は毎時間学生諸君が交代で壇上に立ち、授業演習する。下記教科書のほか、地図帳(中学生または高校生の時使用したもの)と中学校の社会科教科書(これについては授業時指示)が必要である。出席を重視する。

〔教科書〕山崎謹哉『新訂地理教育の本質と実践』(古今書院) ¥ 2,200

社会科教育法（歴史）

野呂 肖 生

中・高等学校における社会科の授業をどのように展開してゆくかを、とくに歴史分野について実践的に考えてゆきたい。そのため、後期は自ら実習する機会を設定して行う。

社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺し続けてきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めたい。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教育採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 梶 哲夫『中等 社会科教育研究』(1) (高陵社)

遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』(新日本出版新書)

無着成恭『山びこ学校』(角川文庫)その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、学習指導要領も使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

社会科教育法

古屋野 素 材

我が国において社会科について考えるということは、一教科の問題にとどまらず、必然的に教育問題全体の極めて重要な側面—政治状況と教育の緊張関係をはじめとして—を考察する方向へむかわざるを得ない。当講義では、この点をふまえつつ、社会科に関連する歴史的な問題構造を検討し、かつ今後の社会科教育が果たすべき役割とその可能性の検討を通じて、各自が教職に主体的にかかわってゆく手がかりをさぐりたい、特に、大学生として、各自が専攻する領域で深い学識を得てゆく過程をこそ、教職志向のパネとしてゆくことに価値を求める。Open System の主旨にそうべく、人文・社会諸科学と社会科の関係についても、具体的に検討してゆきたい。

〔教科書〕 特に用いない。

〔参考書〕 講義中に紹介する。

社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別に模擬教育実習を通じて実践させることで合同的的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕 『学習指導要領（中学、高校の社会）』、各自が使用した社会関係の教科書

職業科教育法

山 田 勇 治

教職についたときに役立つように職業教育の次のような項目について取り扱う。

1. 新しい職業教育観
2. 高校の大衆化と職業教育の盛衰
3. 職業教育の諸機会

4. 各国の職業教育

- 〔教科書〕 宮地誠哉・倉内史郎編「職業教育」講座
『現代技術と教育4』（開隆堂）
¥ 1,600
- 〔参考書〕 宮地誠哉『中等教育と職業生活』（川島書店） ¥ 1,600

商業科教育法

谷 敷 正 光

「職業教育」の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。そして、今回の高校教育の「多様化」政策の破綻にともなう、再び大きく、軌道修正されている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するため、この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本格的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めたい。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育（商業教育）の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科目の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

- 〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）
矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）
- 〔参考書〕 国民教育研究所『高校職業教育の改革』（草土文化社）、遠山 啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社）、田代三良『高校生』（岩波新書）、『あしたに甦れ』（文理閣）
その他商業の教科書、学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌なども使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

商業実習

前 田 幸 一

会社設立から商品取引に係わる事務手続きについて勉

強していく。

〔教科書・参考書〕 未定

職業指導

山 田 勇 治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕 山田勇治著『会計教育論』（創成社）

¥ 1,300

文部省『進路指導の現状と問題』（ぎょうせい） ¥ 200

〔参考書〕 近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』（福村出版） ¥ 1,500

産業概説

和 田 禎 一

資本主義経済発展の原動力は、産業革命以後の新しい産業の群生、その変化に負うところが大きい。そこで本講座では、まず産業の概念、産業構造、産業組織を、現代的視点で解説し、それらを基礎に、戦後日本の経済の展開にかかわった日本の産業と産業政策を概観、分析、評価することにした。

〔教科書〕 授業にさいし適宜指示する。

世界史概説

前 田 正 名

世界史の流れを政治・経済に中心をおいて簡潔に概説する。

〔教科書〕 前田正名『東アジア史概説』（文化書房・博文社）

世界史概説

青木道彦

ヨーロッパ世界の形成と発展を中心とするが、古代地中海世界やイスラム世界など、他の文化世界との関係にもふれながら講義を進めたい。特に近代において、欧米諸国が世界の覇権をにぎる形で、世界が一体化していったことの意義と背景に重点をおいてみたいと考えている。特に教科書は指定しないが、下記の参考書のうち一冊を読みこなすつもりで受講されるとよいと思う。

年間3～4回小テスト実施の予定、理由なくこれに欠席する者には、定期試験の受験資格を与えないので注意のこと。

〔参考書〕 衣笠 茂他『概説西洋史』（東京創元社）
祇園寺信彦編『西洋史要綱』（御茶の水書房）
堀米庸三監修『西洋史展望』（晶文社）

日本史概説

芥川龍男

日本の中世に焦点をおいて講義するが、一方的な講義形式はとらず、質問、レポート等を加味して行なう。歴史の研究手法の事例をあげながら講義をすすめるので、受講生の積極的学習を強く希望する。

テキストは特に指定しないが、講義の進行によって参考文献を紹介するので積極的に読破してほしい。

年間を通じて、受講生は「歴史的な物の見方」・「歴史的な考え方」を身につける努力を、自らの計画によってすすめることを要望する。したがって、受身的な学習態度とみなされる諸君は評価の対照にしないこともあり得る。

地誌学概説

今朝洞重美

地誌学の本質を考察しつつ、前期に日本地誌、後期に外国地誌を講義する。

地誌学概説

長野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したの

ち、現代世界の地域的特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎他共著『世界地誌』（改訂版）
（大明堂）

地誌学概説

渡邊盾夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について講義をする。受講の際には地図帳を持参すること。

自然地理学概説

早船元峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意のこと。

人文地理学概説

高木 久

地理学思想・歴史を述べ、人文地理学の方法論を考察する。「地理的な見方、考え方」の基礎の上に立って、人文地理学の各部門（地図、自然、人文関係）について概説し、人文地理学の理解と関心を深める。

社会学原論

渡辺源樹

“現実科学として社会学”の立場から、現代社会学の基礎理論の諸問題について体系的且つ具体的に論述するとともに、とりわけ準拠集団論に依拠しつつ、リーダーシップと凝集性・集団圧力、モラル、並びに社会規範と逸脱行動、アノミー、群衆と大衆等々についての解明に努める。

経済原論

小野俊夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮して、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕 開講の際に指示する。

政治学原論

飯山勇

本講義は、政治学の基礎理論的部分をとりあげ、その原理的究明に主眼を置いて講義を行なう。特に本講義では現代政治についての理解を深める意図から、現代国家と政治過程に力点を置き、そのなかで大衆社会と政治的諸問題、政治過程と政治集団などに触れつつ、さらに主として、政治権力、国家、政治機構などを解明する。

〔教科書〕 飯山勇『政治学要論』（八千代出版）

民法 I

鶴井俊吉

本講義は民法のなかの財産法を対象とする。

財産法は、われわれ日常生活で最も密接に関係する法分野であり、その内容は、私有財産制の保持・活用のための法制度である。民法典のうち、総則・物権・債権編がこれに属するが、そのなかで、総則・物権に関する基礎的な解説を通じて、主要の原理・原則を理解できるように講義を進める予定である。

〔教科書〕 教場にて指示する。

哲学特講 I（東洋）

篠原寿雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかを受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。

〔教科書〕 その都度紹介したい。

哲学特講 II（西洋）

国嶋一則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗教学特講 I

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講 II

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想・教義、儀礼、教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』（日新出版）

宗教学特講 III

洗建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時、指示する。

教育史

磯野昌蔵

わが国及び欧米諸国における青年期教育の発達を検討する。

宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会編『現代青少年の宗教意識抄』

教育関係法規

木戸三子

教育関係諸法規（ことに教育基本法など）の歴史的成立やそれらの性格等を検討することを通し教育の本質と法との関係について考える。

〔参考書〕 『教育小六法』（学陽書房）

教育関係法規

船木正文

現代日本の教育法制度のしくみと内容及び教師にとって必要な教育法知識について、現実に生起するさまざまな教育問題を具体的に紹介・検討しながら、概観する。

〔教科書〕 牧木正名・平原春好編著『教育法入門』（学陽書房） ¥ 1,500

〔参考書〕 『解説教育六法』（昭和59年版）（三省堂） ¥ 2,000

図書館学 I

若林元典・山崎慶子

児童、生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な

資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか、それらを利用する力を高めるにはどうしたらよいか、又人間形成に役立つ読書のあり方等の追求を学校図書館活動として考えて行きたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」で、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

図書館学 II

若林元典

小・中・高校における教育活動の肉付けとなる教材資料のうちで最も基本的な図書資料を主とし、それに図書以外の資料を加えて、各種資料の収集・整理・利用のために必要とされる知識・技能の修得を目指している。

整理は利用のための整理であり、利用の能率と効果は良質な資料の収集と適切な整理によって裏付けられる。したがって図書館学は収集・整理・管理・利用の全領域にわたる資料運用の学である。

「図書の分類」、「図書の目録」、「資料の選択」、「図書以外の資料の利用」が講義内容である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

『図書館学演習資料 後編』（全国学校図書館協議会）

博物館学

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「実習Ⅳ（特講）」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難かしいかもしれない。本講義は博物館学の基本を講ずるので、この講義を聴くだけでは博物館を全く識るには程遠いのである。その点からいえば社教主事の資格を取得しようとする方は、なるべく他の選択科目を受けていただきたい。4月第1週の時間に必ず出席すること。

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田 芳郎・鶴丸 俊明

博物館で10日間学芸員について実習を行う。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田 芳郎・葉貫 磨哉
所 理 喜夫・伊藤 玄三

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 8月下旬と2月中旬
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬
5. 遺跡分布調査 2月中下旬

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・狩野 千秋

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習は前期・後期のいずれかの半期行うのであるが、組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

博物館実習Ⅳ（特講）

石 井 則 孝

昭和58年3月国立歴史民俗博物館が、千葉県佐倉市に誕生した。最近における博物館建設ブームの頂点に立つものと注目されている。こういった環境の中で、今後いかなる博物館が建設されていくのか、公立の美術館建設が一段落した中で、過去の実績を評価することによって将来像を考えてみる。文化を、行政体では行政の文化化などと使い、博物館をその中心的存在として位置づけよ

うとしている。しかし、博物館を実際に運営するのは、学芸員そのものであり、その資質によってはいかようにも変化するのである。21世紀へ向けて、今後の博物館はどのように活用され市民に定着していくのか、首都圏の博物館の動向をさぐりながら、現実を考えていきたい。

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材の利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新につながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔注〕 特別教科書は使用しない。

〔教科書・参考書〕 大内茂男・中野照海他編『視聴覚教育の理論と研究』（日本放送教育協会）

日本文化史Ⅱ

圭 室 文 雄

日本文化のなかで、とくに日本の宗教の問題についてとりあげることにしたい。ここでは古代から現代に至るさまざまな宗教について吟味を加えることにし、それぞれの時代の文化にどのような影響を与えたかを検討したいと思う。

〔教科書〕 『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

〔参考書〕 『神仏分離』（教育社新書）

西洋文化史Ⅰ

椽 川 一 朗

西洋都市史を、経済・社会構造・政治・文化の諸方面から概観する。

西洋文化史Ⅱ

阿 部 重 雄

ヨーロッパ文明の源流にさかのぼり、ギリシア古典文化、ヘレニズム文化、ローマ文化などの特色を探る。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

仏教美術

林 良 一

仏教美術の図像学ならびに古代インド美術の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、原地撮影のカラー・スライドによって映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

現代美術

中山 典 夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心に、追ってゆく。講義にはスライドを用いる。

禅美術

竹 内 尚 次

禅林美術は禅宗教団の形成展開にもなって自然に発生したもので、禅そのものとは明確に切断されなくてはならない。この禅林美術の本質を究めるために、上代仏教美術とくに平安初期に空海・行基の密教美術と対比して考える。

なお、禅林美術の豊かな爛熟した開花と結実とを、その中心となる絵画作品群の主題を根底から分析することによって、そのなかに在る本質を解明する。具体的には国宝・重要文化財のうち、テピカルなものを採りあげて、教材すなわち研究対象として、現時点においてのデータを手がかりとして、いっしょに考えてみる。

〔参考書〕 玉村竹二著『夢窓国師』（京都平楽寺書店）
同氏著『五山禅僧伝記集成』（至文閣）
竹内尚次著『近世禅林美術』（至文堂 日本美術シリーズ）

美術史概説

林 良 一

中国の魏晋南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥・白鳳期の美術にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

西域美術史

林 良 一

西域美術、ことに仏教美術の東伝を中心として、各地遺跡および遺品について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔参考書〕 林 良一『シルクロード』（美術出版社）

考古学概説Ⅰ（日本）

倉 田 芳 郎

日本考古学研究の基礎的知識が身につくよう、講義するつもりである。年度第1週の授業には必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯 島 武 次

『考古学ゼミナール』の講義を通じて世界考古学について講義を行なう。

〔教科書〕 江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社、1976年、学生版） ¥ 2,800

考古学特講Ⅰ

飯 島 武 次

WANG ZHONGSHU, "Han Civilization" の講義を行なう。

〔教科書〕 WANG ZHONGSHU, "Han Civilization," Yale University prss, 1982
¥ 12,800（コピー可）

考古学特講Ⅲ

狩 野 千 秋

アメリカ大陸の古代文明のうち、とくにマヤ、アステカを対象として、それぞれの文化の生成過程と特質について考察する。

〔参考書〕 『マヤとアステカ』（近藤出版社）
¥ 3,500

日本民俗学

小島清志

前半は、柳田国男以来展開されてきた民俗学の学説史を概観し、何が問われ、どのような方法によってきたのかということ、いささかなりとも明らかにしたい。後半は奄美・沖縄におけるフィールドワークにもとづきながら、現代の民俗学の諸問題、特に民俗社会の変化、都市・農村問題について考察することとしたい。

〔参考書〕 講義の中で随時指示する。

仏教民俗学

和田謙寿

文化財の集いや郷土史研究会などに臨んだ時、必ず仏教文化的な知識が必要となってくる。また、葬式や法事などに出かけると必ず仏事などに関する質問を受けるものである。このような場合に対処できるように、冠婚葬祭のうち、特に葬祭の面に比重を置き、今年の講座を進めて行きたいと思う。なお、実地巡検や特殊ゼミを実施する場合もあるので、年額1～2万円位の費用を用意する必要があると思う。

〔教科書〕 和田謙寿著「仏教の発展—民俗学・歴史地理学的考察—」（仏教民俗学研究会発行）
¥ 2,900

宗教人類学

佐々木宏幹

日本・東アジア・東南アジア各地の諸社会に関する宗教人類学的な研究成果を取りあげ、検討する。宗教的観念と社会組織との関係や宗教儀礼の構造、社会—文化的意味についても考察する。テキストはその都度紹介する。

考古発掘実習

飯島武次

野外における発掘実習を行なう。夏休みの発掘実習に、20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

社会福祉概論

高橋重宏

近年、社会福祉は流行語の一つとなっているが、社会福祉とは何か？ ということになると、その解釈は人さまざまで、その内容や課題についての一致した見解が、必ずしもあるとはいえない。

日常生活のなかでも「慈善」、「慈善事業」、「社会事業」、「社会福祉事業」、「社会福祉」、「福祉」、さらに「ソーシャル・ワーク」、「社会保障」などのことばを安易に混乱し使用している場合が多い。

本講義では、まず、これらの基礎的な概念の整理をすることから始めたい。ついで、社会福祉の歴史的展開過程、社会福祉のしくみ、分野などについて論及し、社会福祉の諸制度の現状と課題について、一応の体系的理解ができるようつとめたい。

〔教科書〕 高橋重宏・島村忠義編著『社会福祉を考える』（川島書店）

〔参考書〕 『社会福祉六法』（第一法規）
『現代社会福祉事典』（全国社会福祉協議会出版部）
なおその他の参考文献については図書館発行の『読書案内』（昭和59年版）を参照してほしい。

障害福祉論

原田信一

主として、わが国における心身障害児(者)福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面（社会的規範）と政策面等の二面的視角にたち、その原点を探るとともに、さらに欧米先進国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをはかり、新たな課題構築の素としてもらう。

〔教科書〕 星野他編『障害福祉論』（第二版）（有斐閣）

〔参考書〕 林邦雄他『心身障害児(者)福祉』（田研出版）

社会福祉実習Ⅰ

原田信一

これまで自らが、大学の場において学びとってきた福祉学という学問を、実習現場において、実際の福祉従事体験等を通してそこにかなる相反や矛盾面があるかなどの現実認識を深めながら、福祉の本質の一端を学びと

ってもらふ。一方、大学においては、実習前に、オリエンテーション、現業機関の組織、機能等を実践に即した概説などをトータル的に教導し、さらに実習後においては、反省・討議を行う予定である。また、実習にのぞむにさいしては、各自が、実習の目的を適確にとらえ、何をとくに実習するかの問題意識を整理し実習にのぞんでもらうことについては今更言うまでもないことである。

〔教科書〕 橋本泰子他編『社会福祉実習』（相川書房）

社会福祉法制

小林 弘 人

本講義は、憲法25条を具体化する社会保障社会福祉に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。前期の前半は、『社会学研究』15号所収の「西ドイツにおける社会行政法」を資料にして、主として西ドイツにおける社会福祉に関する法の問題点を検討する。この検討を終えた後は、教科書『社会事業法制』に準拠して、当初の目的達成のための講義を行う。

〔教科書〕 小川政亮『社会事業法制』（ミネルヴァ書房）

公的扶助論

小 沼 正

公的扶助は、社会保障とくに所得保障において、社会保険と並ぶ主要な部門であり、貧困救済の最後の安全網 Safety net といわれる。わが国では生活保護制度によって代表される。

生活保護について、欧米諸国を念頭において、歴史的生成過程とそのもつ問題点——貧困と最低生活保障、最低生活水準とその算定方法、保護率、受給者の権利意識その他、および将来の方向などを取上げる。

これらの諸問題は、ひろく社会保障そのものをも規定する基本的条件である。

〔教科書〕 小沼 正著『貧困—その測定と生活保護—』〔第二版〕（東京大学出版会）

〔参考書〕 籠山 京著『公的扶助論』（光生館）
仲村優一著『生活保護への提言』（全社協選書）

児童福祉論

原 田 信 一

今日、児童をめぐる法律・制度は整備され、社会福祉分野においても、いちじるしい進歩をみた。しかし、現実面では必ずしもそうとばかりはいいきれない。つま

り、日々、目まぐるしく激動する社会で、引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人権無視にはじまり、公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく現出し、まさしく児童福祉の危機的様相をみせている。そこで、本講においては、児童福祉を広い視座から考察し、児童への理解と併せて、児童に関連ある法制度にも言及しさらに、狭義の児童福祉事業にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕 原田信一『現代児童福祉学』

〔参考書〕 高橋重宏編『児童福祉を考える』

老人福祉論

奥 山 正 司

I 老後・老人問題の背景

1. 人口の老齢化
2. 老人と家族
3. 老人の経済状況と職業
4. 老人の身体的、精神的障害

II 老人福祉対策の現状と課題

1. 施設福祉対策の課題
2. 在宅福祉対策の課題
3. 老人に対する処遇

社会保障概論

小 沼 正

まずわが国制度の現実を把握するため、その主要な所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当など）、医療保険その他について概観し、それぞれの問題点を取上げる。

ついでこれらをふまえて、その生成と発展に視点を置いて、欧米諸国をも含めて、社会保障の体系、社会経済的条件、財政、国際比較などについて、論点を進める。

〔教科書〕 小沼正・地主重美・坂坂哲哉編『社会保障概論』（川島書店）

〔参考書〕 地主重美編『社会保障読本』（新版）（東洋経済新報社）

社会保障研究所編『社会保障の基本問題』（東京大学出版会）

福武 直著『社会保障論断章』（東京大学出版会）

地域福祉論

岡田 真

「地域住民に“根廻し”をするにはどうすべきか」を中心に論ずる授業である。“根廻し”はなぜ施さなければならぬのだろうか。それは、ケースワークやグループワークを、現実の住民生活のなかに定着させるためである。

「ワーカーは福祉三大技術を総合的に駆使しなければならない」(integration)と言われるが、その具体的な意味は、上記の通りである。その点で本講は「方法総論」、「ケースワーク論」、「グループワーク論」と補完関係にたつものである。

①地域福祉の基本課題。②コミュニティ・ケア。③コミュニティ・オーガニゼーションが、本講の内容であるが、第①のテーマはそのままだ地域問題論である。従って、同じ担当者の都市社会学を、ともに知ることが望ましい。(もちろん本講だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが)

〔教科書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論』(大明堂)

〔参考書〕 岡田 真『都市化日本の学歴社会』(大明堂)

小沼 正『日本の福祉の課題と展望』、『日本都市学会年報』(1983),『駒大文学部研究紀要』(1981),『駒沢社会学研究』(1982)の岡田論文。

ケースワーク論

高橋 重宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の一つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、トリートメント過程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かが体系的に理解できるようにつとめたい。

なお、後期の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

さらに、講義を効果的に展開するために『社会福祉方法総論』の単位を修得した学生の履修を原則とする。

〔教科書〕 久保絳章・高橋重宏編著『ケースワークを考える』(川島書店)

〔参考書〕 必要に応じ指示する。

グループワーク論

松本 栄二

社会福祉実践の方法としてのグループワークについて具体的実例を用いて解説する。そのなかで、グループ活動との相異点から更らに Social work with group の立場をとる理論についての説明も行う予定。受講者は、ボランティア活動であるとか、何らかの福祉分野における経験をもっていることが望ましい。

授業方法は出来るだけ講義はさけ、(前期の暫らくはやむを得ないが)、受講者による報告やバズ、セッションなどを操り入れたものでやる予定、実例は適時配布する(実費徴収)。

社会福祉事業発達史

林 千代

社会事業は、近代社会がスタートするにつれて生成したと考えられている。もちろん、いつの時代にも、生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。こんにちの社会福祉事業、社会福祉、社会保障、福祉国家に至るプロセスは長く、かつ遠かった。外国、特に英国そして日本において、対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等々を中心に講義していきたい。一定の歴史的産物である社会福祉その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕 未定

〔参考書〕 その都度紹介していく。

母子福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉を組立てているがそれは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。そして、婦人の生存さえあやぶまれる状況の一つが母子家庭になった時なのである。これらは、いわば婦人問題の集約であり、福祉施策の最も具体的な対応がせまられる。このような問題意識に立って、講義のあらすじを示すと次のようになる。1. 母子家庭とは(法的規定生成要因など)、2. 母子家庭の生活実態とその困難(所得、消費生活、家事機能、住宅等)、3. 母子家庭の生活問題に対応する母子福祉施策(経済的負担に対し

て、育児、病気、住宅について、母子寮についてなど)
〔教科書〕 特になし。
〔参考書〕 その都度紹介していく。

医療社会事業論

春見 静子

英国、アメリカ、日本における医療社会事業の発達、医療社会事業の分野とその特色（病院、保健所、社会福祉施設）をふまえて、医療社会事業の方法、すなわち患者とどうかかわるかという具体的な問題をバーガーの手引書に従って検討し考察する。

〔教科書〕 ミルトン・M・バーガー『病むということ』（星和書店）
〔参考書〕 中島さつき『医療社会事業』（誠信書房）

社会福祉方法総論

高橋 重宏

社会福祉実践の専門技術の基礎について学ぶことが中心となる。

具体的には、ソーシャル・ワークの基礎知識及び関連理論、歴史的展開過程、現代社会におけるその独自の社会的機能を明確化させつつ、ソーシャル・ワークについての入門的解説を中心に展開したい。

さらに、事例を用いながら、ソーシャル・ワーカーになるための基礎理解を深め、ソーシャル・ワーカーとしての基本的姿勢についても追究する。

〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）
〔参考書〕 必要に応じ指示する。

社会福祉管理運営論

重田 信一

社会福祉の実践を推進するには、社会福祉の制度を整えたとともに、その制度を効果的に運営するための福祉専門性の関連を問題にしなければならない。その手段・方法を地域ぐるみ、施設ぐるみの形態を通して展開するが、その効果をたかめるには、いかなる配慮が必要かもあわせ検討する。講義を福祉経験の浅い学生にも理解しやすいよう事例を引用して説明する。特に社会福祉行政、社会福祉実践に関心のたかい学生を歓迎する。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示する。

リハビリテーション論

原田 信一

リハビリテーション領域のなかで、いちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも、困難な問題を抱えていることが、いちじるしい遅滞をもたらす原因につながっているといわれている。そこで本年はとくに、社会リハビリテーションに視点を絞り、その基本問題をふまえながら、社会・文化的環境を考察し、政策と実践の方法論、それらを支える隣接科学面ならびに、リハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕 講義ノートによる。
〔参考書〕 随時指示する。

社会教育概論

磯野 昌蔵

- 社会教育制度と法
- 学校教育と社会教育
- 社会教育関係団体

社会教育方法論

磯野 昌蔵

社会教育の諸形態と施設について検討する。

社会教育行政財政

酒匂 一雄

社会教育行政は、施設の設置・運営、集会の開催、資料の作製その他の方法で、「すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努める」ことを課題としている。

この視点から、①社会教育の本質と社会教育行政、②わが国の戦前の社会教育行政、③戦後の社会教育行政の理念と制度——法制・施設・職員など——、④経済政策

と社会教育政策, ⑤住民と社会教育行政, ⑥社会教育の民主化, ⑦社会教育行政の動向と課題などを講義する。

〔教科書〕 必要によりプリントを用意する。

〔参考書〕 小林文人他『社会教育ハンドブック(改訂版)』(エイデル研究所)

『社会教育行政必携』〔58年版〕(第一法規)

教育社会学

村山輝吉

人間の発達というテーマを, 主として社会環境と文化の変容という観点から考察する。

1. 教育社会学の性格
2. 家族の訓育機能
3. 仲間集団と人間形成
4. 学校の陶冶・形成機能
5. 地域社会と教育
6. 文化の変容と子どもの発達

社会心理学

坪井 健

本講義は, 社会心理学をめぐる諸問題に配慮しつつ, 基本的には社会生活をしている人々の社会心理諸現象を, これまでの社会心理学が明らかにしてきた知見に依拠して, その社会的過程と心理的過程を分析的に解明することを目的とする。

〔教科書〕 講義の中で指示する。

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とはなにか
2. 社会教育施設の歴史と現状
 - (1) 日本
 - (2) 外国
3. 関係法規等
4. 施設各論
 - (1) 公民館
 - (2) 図書館
 - (3) 博物館
 - (4) その他
5. 施設職員の問題

児童教化

富田博之

「児童教化」の現代的形態としての〈子ども文化(児童文化)〉の成立過程(歴史)と現状を探り, 併せて〈子ども文化〉の現場で働く人のための実習を行なう。

〈子ども文化〉の歴史では, 主として, 子どものためのコミュニケーション・メディアの発達史を扱い, その現状では, 主として, 子どものためのマス・コミの状況について学習する。

実習は, 〈子ども文化〉の活動家にとって必須な, 身体とことばによる表現とコミュニケーションの方法の初歩を学習する。

〔参考書〕 ホグベン著・寿岳文章他訳『洞窟絵画から連載漫画へ』(岩波文庫) ¥450
富田博之『学校文化活動論』(明治図書) ¥2,000

青少年問題研究

和田謙寿

中学校や高等学校の教師をめざす者。または, 青少年の指導者を志す人を対象とし, 理論と現実の両者を見つめつつ講義を行いたい。特に学校の教師になる場合は, 専攻した学科は当然の事, 受持クラスの生活指導にも大きな比重をかけて尽くさねばならぬ。その点に深く留意して授業をすすめる事にする。(特に少年の問題に興味のある者は, 青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法であろう。) 家庭内暴力・校内暴力・暴走族・薬物乱用など, 種々社会問題としてとりあげられているが, これらの問題も時間の許す限り取り組みたいと思っている。教科書は考慮中。

青少年指導演習

和田謙寿

国や地方公共団体が年々増加する青少年の非行化に対応して万全の策を尽しているが焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済まされるものでなく, 現実面からの考察が必要である。将来, 少年補導員や青少年指導員, 民生委員(児童委員)社会教育主事や福祉主事, 生活指導教諭等に従事しよう并希望する人たちには是非とも必要な講座である。最近の新聞報道によれば現在の学校教師や福祉主事の仕事を果すためには, 青少年の非行化は正指導に通じていなければ用をなさないと言われている。この線にそって, 少年補導学, ケース・ワークを中心に進めて行きたい。

社会教育演習

上岡安彦

秋期に埼玉県川口市内の公民館、図書館、児童文化センター、幼児会館、青少年会館、婦人会館等で一週間の社会教育実習を行ないます。

実習前は、社会教育実践記録として『成人教育への挑戦』を読み、実習後はマクロの視点から『生涯教育』を読みます。

〔教科書〕 永田良行『成人教育への挑戦』（全日本社会教育連合会） ¥ 750
ネットーレ・ジュルピ・前平泰志訳『生涯教育』（東京創元社） ¥ 1,500

教育評価

大浜幾久子

生徒の発達を正しく測定し、評価することは、本来、教師の教育実践の中で重要な仕事である。教師は、評価を通して、生徒のつまずきを発見し、自らの実践を反省する。また生徒も、評価を手がかりとして、以後の自分の学習の方向を考える。ところが、教育評価ということばから多くの人々がまず思い浮かべるのは、学力テスト・偏差値・通信簿・内申書等であり、これらは、大多数の父母・教師そして生徒にとって、今日の学校教育の矛盾の象徴として映っている。では、教育評価の本来の機能をとりもどすにはどうしたらよいのだろうか。教育評価の理論の歴史をたどり、また教育測定・評価の技法を実習を含めて学ぶことにより、この問題を考えていく。

〔参考書〕 梶田徹一『教育評価』（有斐閣双書） ¥ 1,800
中内敏夫・三井大相編『これからの教育評価』（有斐閣選書） ¥ 1,400

教育法規研究

神田修

教育と法（規）とのかかわりや、そのあるべき関係などを学ぶことは、現代においては教育問題を考えたり、教育をよくしていくために欠かせないことである。

教育と法（規）とのかかわり、その意義、教育法（規）の原理と歴史、さらに教育法（規）に関する個別的問題について、できるだけ内外の具体的事例を通じて学習することにしたい。

〔参考書〕 『解説教育六法』（三省堂） ¥ 2,000
『史料日本の教育』（学陽書房） ¥ 2,200
『教育法規事典』（北樹出版） ¥ 1,800

成人指導及青少年指導

酒匂一雄

子どもの発達と家庭・地域の教育を中心に講義する。
①現代教育にとって、青少年の発達にとって、家庭・地域はどういう意義をもつのか。②地域の子育ての習俗、戦前の少年団体の歴史を概観。③現代の子どもの生活構造の変容、学校外教育の動向、“地域の教育力”の内容を把握。④地域の子どもをめぐる国の政策。⑤地域の教育と社会教育行政、児童館や学童保育の現状、学校と地域の連携協力とそこでの「指導」のあり方などを考察する。⑥あわせて、成人の発達と学習方法を概観し、「指導」の種々相を吟味する。

〔教科書〕 必要によりプリントを用意する。

生活指導

秋山さと子

現代のおとなたちが、おとなの合理的な考えで、子どもたちへの対策を考えれば考えるほど、結果は逆になるような気がします。

想像力も育てずに自立させられてしまう子どもたちは、自分の不満や抑圧された本能的衝動の結果を、既成の学問の理論を借りて説明し、その解釈ですべてを割り切って、その中に逃げこみ、実際に自分の心に問い直すことをしていないのではないのでしょうか。

〔教科書〕 秋山さと子『ユング心理学』（講談社現代新書） ¥ 420

教育哲学

汐見稔幸

この授業は、少人数のゼミ形式をとりながら、教育とはなにかとか、人間が発達するとはどういうことかなどについて、じっくりと考えあうことをねらいとしています。ですから参加者は、上記のような問題を一度徹底して考えてみようと思っている人に限定したいと思えます。テキストとして、一応ルソーの『エミール』を考えていますが、参加者の希望によって変更もあります。そのテキストをどう読むのかを毎回報告していただき、討議するというスタイルを進めたいと思います。詳細は第一回目の授業で決めます。

教育調査

大塚雄作

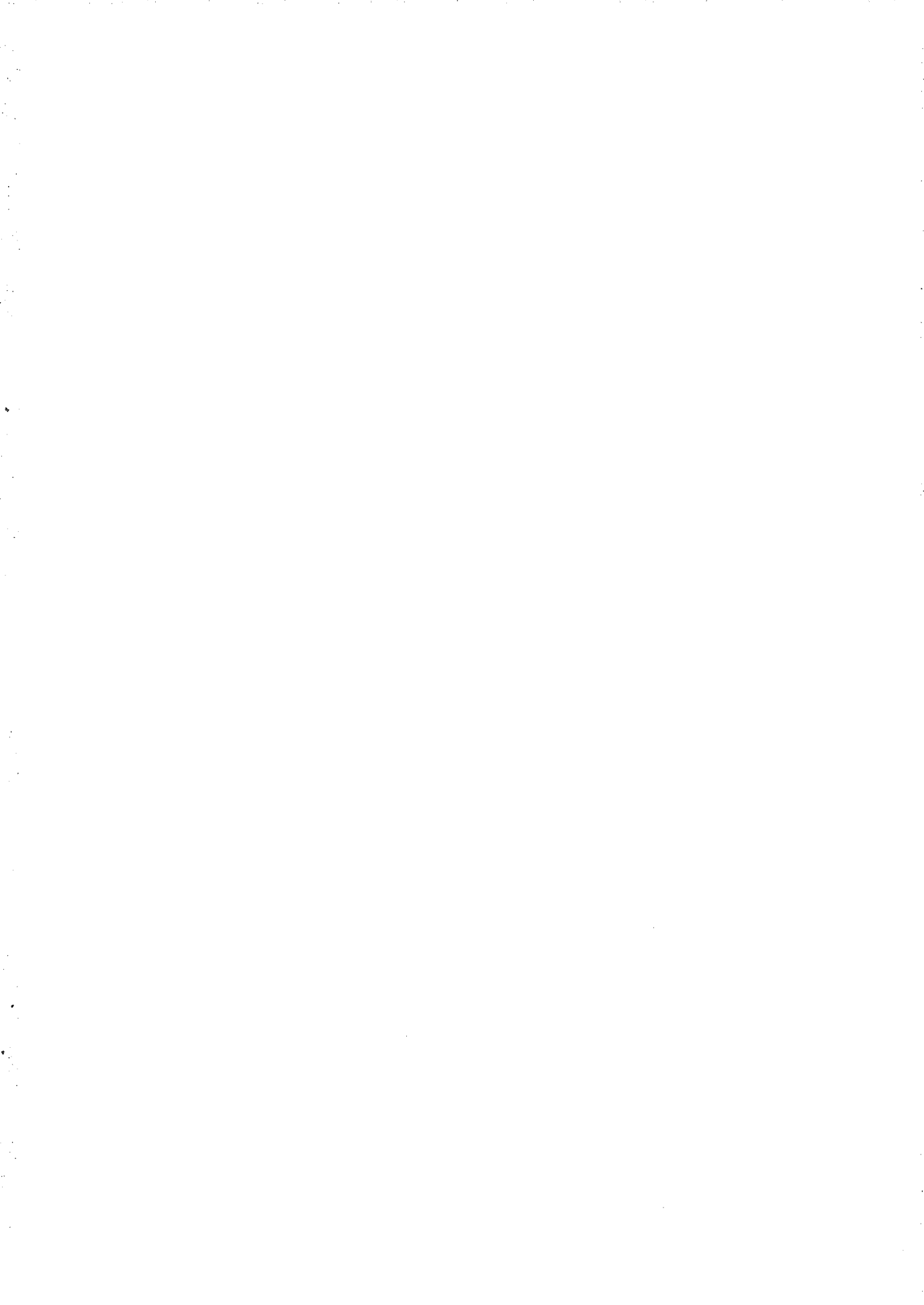
教師は、生徒の学習状況をはじめ、さまざまな観点から生徒に関する情報を収集する必要に迫られる。そればかりか、教師自身や、一方、学級・学校に関しても、いろいろと知りたいことが出てくるであろう。そこで、ここでは、教育実践の中でしばしば直面すると思われる具体的な場面で、どのような情報の収集を行えばよいかを考察してみる。特に、テストやアンケート調査等については、それらを実際に作成・施行・分析してみることによって、体験的に問題点を掘り下げるつもりである。

〔教科書〕 特に指定しない。

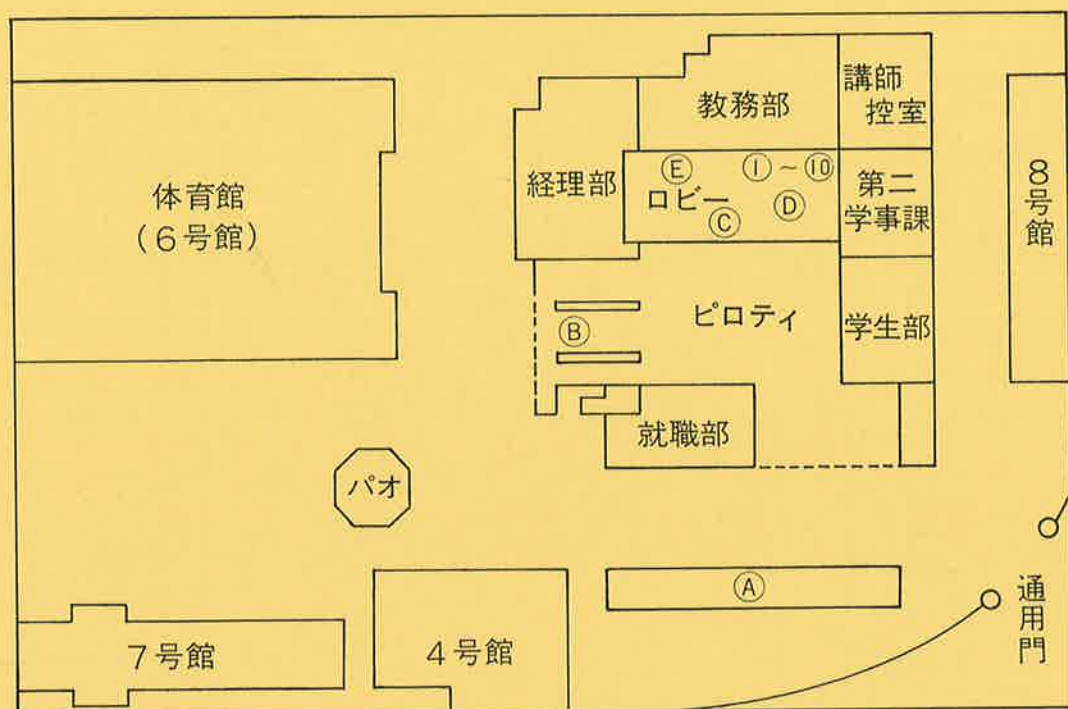
〔参考書〕 池田 央『調査と測定』（新曜社）

¥ 2,800

塩見邦雄他『心理検査・測定ガイドブック』（ナカニシヤ出版） ¥ 2,500



教務部窓口及び掲示板案内



- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
(健康診断書および
在学証明書は学生部)
諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願 (休学・退学・復学・死亡
改氏名・本籍地変更・保証人変更)
保証人住所変更・聴講
- ⑥大学院関係・留学生関係
学部演習 (仏教学部・経済学部)
法学部・経営学部
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦時間割変更・休講・外国語指定届
卒業証書・転部科
- ⑨履修・試験・成績・学業相談

④第1掲示板(表面)……………公示・告示, 学生部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項, その他

第2掲示板(裏面)―臨時掲示板―

……………教務部関係連絡事項(12月~3月), 就職部関係連絡事項(9月~11月)

⑤第3掲示板―臨時掲示板―

……………教務部関係連絡事項(12月~3月), 就職部関係連絡事項(9月~11月)

◎休講掲示板

⑧授業時間表カウンター

◎大学院・留学生関係掲示板

